



# 2015

ANNUAL REPORT  
2015.04.01 – 2016.03.31

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

地域 × 若者 = とちぎの新しい物語



VISION -目指すべき社会-

それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

MISSION -社会的使命-

若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を加速させる

CONCEPT -視点-

【現場】社会を創る実践者や課題と、若者とのリアルな接点

【役割】必要とされるチャレンジの場

【現場】若者のチャレンジを支え合うソーシャルキャピタル

未来・可能性  
希望の創造  
現状を突破するヒント  
社会の活性化、新陳代謝

チャレンジの意義

個の力の発揮・社会認識  
当事者意識・絆・仲間  
人の大切さ・意欲・自信  
責任感・自己成長

CONTENTS

3	組織概要・TEAMユーススタッフ
4	2015年度総括
5	若者たちの挑戦の足跡
6	プロジェクトの位置づけ
7	各事業の取り組む社会課題と成果 活動報告
8	インキュベーション (1)・・・実践型インターンシップ事業 (2)・・・起業・創業ネットワーク事業
13	動機付け (3)・・・地域中小企業の人材確保・定着支援 (4)・・・地域担い手定着支援 (5)・・・とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku ※「5」のつく日。JCBで復興支援プログラム助成(フィランソロピーバンク)事業 (6)・・・その他の事業 災害支援チーム ユース500 栃木県まちなか元気会議事業「とちぎ未来留学」(とちぎ学生未来創造会議) ユースワークキャンプ for 海岸林、会員限定交流会「YOUTH TIME」 その他(講演・ワークショップファシリテーター等)
17	ファンドレイズの取り組み (7)・・・ホン de チャレンジ (8)・・・ユース年末寄付キャンペーン (9)・・・gooddo
19	活動実績 ・2015年度参加者数等・各種データ推移・メディア掲載
22	TEAMユースメンバーズ ・メンバーの声・支えてくださっている団体・企業のみなさま
24	財務報告 ・活動計算書・貸借対照表・財産目録

# 組織概要・TEAMユーススタッフ

団体名： 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク(愛称: TEAMユース)

代表者： 岩井 俊宗

住所： 栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル2F Tel/Fax: 028-612-3341 E-mail: ysn\_office@tochigi-ysn.net

設立： (任意団体)2008年7月1日 (法人化)2010年4月1日

スタッフ体制： 常勤3名、非常勤3名

会員数： 運営会員(個人) 58名、賛助会員(個人) 32名、賛助会員(団体/企業) 13社、チャレンジ会員44名(2016.03.31現在)

理事/役員：

代表理事	岩井 俊宗	(認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事)
副代表理事	塚本 竜也	(NPO法人トチギ環境未来基地 理事長)
理事	大塚 雅斗	(株式会社キッズコーポレーション 代表取締役)
理事	清嶋 磨利夫	(株式会社キップルネットワーク 代表取締役)
理事	小久保 行雄	(有限会社ドンカメ 代表取締役)
理事	金井 光一	(NPO法人チャレンジド・コミュニティ 代表理事)
理事	中野 謙作	(一般社団法人栃木県若年者支援機構 理事長)
理事	古河 大輔	(NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク 事務局長)
監事	安藤 正知	(宇都宮市まちづくりセンター「まちびあ」センター長)

サービス(事業)：

(1)特定非営利活動に係る事業

- 1.社会事業を行う若者の人材育成事業
- 2.ソーシャルプロジェクト支援事業
- 3.ネットワーク・コミュニティ形成事業
- 4.行政、企業、NPO、組織形態を越え  
地域・若者サポートネットワークの構築事業

- 5.挑戦する若者を支える奨学金事業
- 6.社会事業に関する相談/アドバイス事業
- 7.調査研究事業
- 8.情報発信・出版事業

(2)その他の事業

- 1.物品販売事業
- 2.出版事業
- 3.施設管理業務事業

## TEAMユーススタッフ

【スタッフ】



代表理事  
岩井 俊宗

1982年生まれ。宇都宮市出身。宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティアコーディネーターとして宇都宮市民活動サポートセンター入職。NPO・ボランティア支援、個別SOSに従事。08年若者の成長の機会創出と持続的に取り組む人材を輩出し、若者による社会づくりの促進を目的に当会を設立。その他、NPO法人宇都宮まちづくり市民工房理事、栃木県社会貢献活動推進懇談会委員等。

【担当】実践型インターンシップ事業全般、大学コンソーシアムとちぎオリジナル科目「起業の実際と理論」他



理事・事務局長  
古河 大輔

1980年生まれ。小山市出身。大学卒業後、名古屋でインテリアコーディネーターとして4年間勤務。その後青年海外協力隊(村落開発普及員)として南米ポリビアに赴任し、収入向上プロジェクトや植林などの環境保全活動に従事。誰もが地域のプロデューサーとなる多様性溢れる地域社会を目指し、現職。その他、NPOカゼトツチ代表等

【担当】IDEA→NEXT、宇都宮市創業支援事業、復興支援プロジェクト、UIJターン事業 他



プログラム  
コーディネーター  
石川 慎太郎

1979年生まれ。鹿沼市出身。大学でコンピュータ工学を専攻。IT 企業で企画開発および営業企画・マーケティングを担当し、新商品開発や大手企業向けITセキュリティ提案を多数行う。その後、NPO業界に興味を持ち、とちぎボランティアネットワークと日本ファンディング協会にてファンディングを経験。現在は地元栃木県にて、地域の企業やNPO のIT化や情報発信の支援を行っている。NPO 法人サバイバルネット・ライフ理事。20カ国を旅したジェットコースターマニア。

【担当】実践型インターンシップ事業全般 他



総務・経理  
森 雄史

1983年宇都宮生まれ。駒澤大学を卒業後、あてもなく無職の時代を一年半ほど経て、ユースが立ち上げた学校「とちぎユースワークカレッジ」に1年半ほど在籍。そこでのインターンでユースへ赴いたことが最初のユースとの出会いであり、その後10ヶ月ほどインターン続ける。インターン終了後は簿記3級の資格取得のために勉強し合格。その後ユースの非常勤スタッフとして招き入れられ、事務や庶務を担当。現在に至る。

【担当】YOUTH TIME、IDEA→NEXT、ホンデチャレンジ、総務・会計全般



プログラム  
コーディネーター  
菊池 公江

静岡県出身。結婚を機に栃木へ。旅行会社に勤務し各地を駆け巡った後、ユース主催のアイデアコンテスト「IDEA→NEXT」に応募。ファイナリストに選出される。2児の母として日々子育てに奮闘しつつ、ユースでもお母さんの存在として活躍。得意技は掃除と3秒で眠ること。

【担当】WORK TRIP、総務全般



プログラム  
コーディネーター  
吉井 渚

富山県出身。北里大学で4年間畜産学を学んだ後、宇都宮大学大学院に転学し農業経済学を修める。在学中に農村での若者育成・地域づくりに興味を持ち、各地の農村に足を運びながら現場を通して地域づくりを学ぶ。今後は、被災地という課題先進地域で学んだことを専門に活かしたいと考え、ユースでの業務に取り組んでいる。学生時代は、よさこいの踊り子として活躍。最近はやさ女子を目指しお裁縫をがんばっている。

※2016年3月スタッフ加入  
新年度より復興支援プロジェクトを担当

【ユースインターン】高橋伸明、門間大輝、渡辺明里、吉井渚

【ボランティア】五十嵐圭、伊沢聡志、石田遥香、小川咲里菜、篠原永知、須崎孝介、富樫奈美子、土橋優平、内藤さつき、濱野将行、逸見菜、牧田豊樹、三川岬、安田ゆうき、山中隆弘、吉田直樹、和田紋佳、渡邊貴也

2015年を振り返って

進化、発展、新たな課題。

2015年度を数字で捉えてみると、プログラム提供者数は、前年度より819人増の2,251人、協力者は、43人増の401人、活動時間は、326時間増の11,257時間、会員については、24人、4社増の130人、13社となった。活動予算に関しては、事業収入の大幅な増となった。運営体制について職員2人の加入により6名の職員と4名のインターンシップ生で実施することできた。

ミッション、事業の体系化をチームスタッフ全員で共有し、全体を捉えながら、目の前に地域と若者に向き合っていく基本姿勢が浸透してきた。加えて、各チームスタッフが担当するプログラム間の連動も機能し、プログラムの集約地点となる「IDEA→NEXT」には、それぞれのプログラム参加者からエントリーがあり、12組(前年より6組増)となり、その半数以上が新たに動きだしている。

全体的に活動の規模は拡大することのできた1年であった。しかしながら、今後に向けては、それぞれの主体的参加とパフォーマンスを最大限生かす組織としての安定性と、会員等の協力者・応援者の「共感」「参画」を活動現場に取り込んでいくこと、本質的ミッションの実現に向けた若者が関わることで起きる地域の変化(成果)の可視化、ビジョンの解像度を高めるための具体的ビジョンの設定などの課題が明らかとなった。

代表理事 岩井俊宗

2015年度活動総括

1 事業の体系化・連動による規模と質、会員等の支援者が共に拡大。



プログラム参加人数は、対前年819人増の2,251人、活動時間も326時間増の11,257時間と機会創出量を高めることができた。参加者をそれぞれのステージの引き上げることや、会員化など、スタッフ一体となって次につなげる関わりができた。

2 新領域「UIJターン×地域づくり」コンパスプログラム、宇都宮大学起業家育成授業、新プログラム始動。



プログラムにおいて、動機づけプログラムのうち、首都圏社会人に向けたUIJターンプログラムや、学生に向けた大学内での起業家養成カリキュラムが始まった。

3 事業収入等の増加により自己資本比率を高めることはできたものの、会費・寄付・協賛金の支援性資金が減少した。



事業収入としては、前年度より約1116万円増の18,217,240円となったが、支援性資金が、会費では136,340円の減の419,000円、寄付・協賛では1,402,486円減の1,699,694円となった。会員等の協力者の力を借りながら事業を進めていく運営において、事業性資金と支援性資金のバランスが課題となった。

4 メディア等の掲載等、当会取り組みを発信頂く機会が増えた。



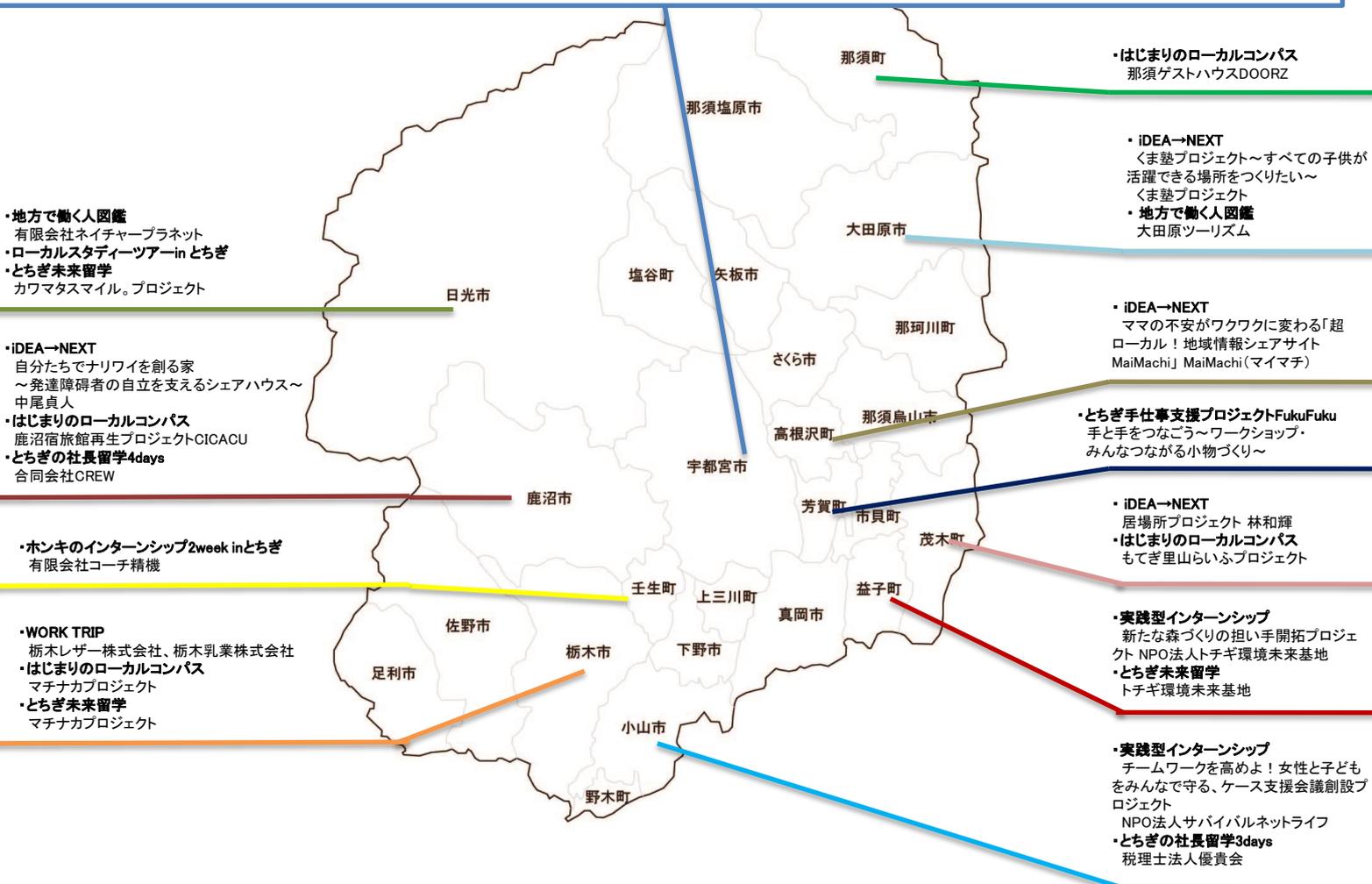
メディア掲載数は、前年度より18件増の40件となった。新聞・ラジオのほかにも、雑誌「ソトコト」他、本など全国への発信媒体にも掲載された。

## 実践型インターンシップ

- 薬物依存者の将来の支援メニューを創造する社内アイデアのヒアリングプロジェクト  
NPO法人栃木DARC
- スポンサー企業紹介資料作成プロジェクト  
NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
- 地域に新たな動きを創り出すコーディネーター養成プロジェクト  
NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
- ソーシャルビジネススタートアッププログラム構築運営  
NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
- ホームゲームに若者を  
株式会社リンクスポーツエンターテインメント
- 脱レジャー施設。これからの時代の動物園の在り方、魅せ方を考えよ。  
宇都宮動物園
- 働く人図鑑  
文星芸術大学、作新学院大学、宇都宮共和大学、帝京大学
- トチギシゴトフェス  
宇都宮共和大学
- とちぎの社長留学3days  
株式会社オーリアル
- WORK TRIP  
株式会社ファーマーズ・フォレスト

## iDEA→NEXT

- うつのみやコミュニティガーデン 小林かぐみ
- 大学生生活の満足度向上×地域活性化プロジェクト  
～栃木県の大学だからこそできる地域と大学生の環(コラボ)～ 粟野倫世
- 動いて、心地よい学びを！～ようこそ！教育の新しいステージへ～ 福田燈
- 今の仕事以外に『やりたいこと』は何ですか？～『おとなの部活』@宇都宮どっとこむ～ 脇本崇
- 楽しむ、つながる、変わる。アダルトチルドレン人生再出発プロジェクト 阿部寛
- ソーシャルビジネスセミナー(全4回)  
宇都宮市中央生涯学習センター
- ソーシャルビジネスフォーラム  
宇都宮大学
- 起業の実際と理論  
宇都宮大学
- とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku  
手と手をつながる～震災読書会～、手と手で伝わる～残暑お見舞い書き方教室～
- とちぎ未来留学  
とちぎYMCA
- 会員限定交流会「YOUTH TIME」



## 県外

- 東京都**
  - はじまりのローカルコンパス  
オリエンテーション
  - LIFEGARD
- 茨城県**
  - iDEA→NEXT  
学生が運営する子どもの居場所カフェ～子どもが安心、第二の我が家～ 小田部江莉
- 福島県**
  - とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku
  - 手と手が出会う旅2015summer
  - ユースワークキャンプfor 海岸林  
フクシマ環境未来基地

## ＊ プロジェクトの位置づけ



## ＊ プロジェクトリスト

分類	事業	プログラム	期間	参加人数
<span style="color: orange;">■</span>	実践型インターンシップ事業	「GENBA CHALLENGE」	通年	7
<span style="color: green;">■</span>		宇都宮大学「課題発見・解決型インターンシップ」	2015年8月～9月	12
<span style="color: orange;">■</span>		「地域コーディネーター養成」 ※JT助成事業	通年	7
<span style="color: red;">■</span> <span style="color: orange;">■</span>	起業・創業ネットワーク事業	若者による社会を良くするスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」	2015年10月～2016年3月	174
<span style="color: orange;">■</span> <span style="color: green;">■</span>		宇都宮市創業支援事業 「ソーシャルビジネスセミナー」「ソーシャルビジネスフォーラム」	2015年10月～12月	113
<span style="color: orange;">■</span> <span style="color: green;">■</span>		宇都宮市創業支援事業 大学コンソーシアムとちぎオリジナル科目「起業の実際と理論」	2015年10月～2016年1月	277
<span style="color: green;">■</span>	地域中小企業の人材確保・定着支援	働く人図鑑、ホンキのインターンシップ 2weeks in とちぎ、とちぎの社長留学 3days、WORK TRIP、トチギシゴトフェス <UIJターンプログラム> 地方で働く人図鑑、LIFE CARD、ローカルスタディツアー in とちぎ	2015年6月～2016年2月	417
<span style="color: green;">■</span>	地域担い手定着支援	とちぎ地域イノベーター誘致・養成事業 「はじまりのローカルコンパス」	2015年7月～2016年3月	127
<span style="color: red;">■</span> <span style="color: green;">■</span>		「とちぎ手仕事支援プロジェクト FukuFuku」 ※「5」のつく日、JCBで復興支援プログラム助成(フィランソロピーバンク)事業	通年	231
<span style="color: red;">■</span> <span style="color: orange;">■</span> <span style="color: green;">■</span>	各種事業	1)災害支援チーム ユース500 2)栃木県まちなか元気会議事業「とちぎ未来留学」 (とちぎ学生未来創造会議) 3)「ユースワークキャンプ for 海岸林」 4)会員限定交流会「YOUTH TIME」 5)講演・ワークショップファシリテーター等	2015年4月～2016年3月	886 (※災害支援は除く)
	ファンドレイズ	1)「ホン de チャレンジ」 2)「gooddo」 3)「ユース年末寄付キャンペーン」(2015.11.20～2016.02.28)	通年	

事業	本事業取り組む社会課題	成果
<p><b>実践型インターンシップ事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「GENBA CHALLENGE」</li> <li>宇都宮大学「課題発見・解決型インターンシップ」</li> <li>「地域コーディネーター養成」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中小企業・NPOの衰退、人材不足</li> <li>企業と若者の就業に関するミスマッチ</li> <li>社会の中において若者に挑戦の機会が少ない</li> <li>組織内だけでは解決できない経営課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で若者を必要とする現場に、若者が長期的参画し若者の実践行動により、それぞれの現場において課題の改善・解決にむけた価値を創出</li> <li>若者が地元中小企業の中に入り、リアルな企業活動を認識。また逆に企業側にとっても若者とのリアルな関わり合いから、向きあい方、力の活かし方のノウハウを獲得</li> </ul>
<p><b>起業・創業ネットワーク事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若者による社会を良くするスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」</li> <li>宇都宮市創業支援事業「ソーシャルビジネスセミナー」・「ソーシャルビジネスフォーラム」</li> <li>宇都宮大学講座「起業の実際と理論」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代の地域課題の解決に継続的に取り組む若手人材の不足</li> <li>地域で社会活動を担う若者のコミュニティ不足</li> <li>地域課題・社会課題の認知不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度のスタートプログラムとなったソーシャルビジネスフォーラム・セミナーではのべ113名の参加が得られ、興味関心の掘り起こしに成功</li> <li>セミナーでの4組と宇都宮大学講座「起業の実際と理論」からの1組がiDEA→NEXTに出場、さらに自らのプロジェクトを進めている組が6組あり、今年度は今までで最も多い地域で活躍するプレイヤーを輩出</li> <li>3つのプログラムが全体で一つの流れに連動し、若者のプロジェクトをトータルでサポートする流れを確立</li> <li>幅広い層へのサービス提供と実践者たちとの連携により、チャレンジする若者と応援するサポーターとのエコシステムを構築</li> </ul>
<p><b>地域中小企業の人材確保・定着支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働く人図鑑</li> <li>ホンキのインターンシップ2weeks in とちぎ</li> <li>とちぎの社長留学 3days</li> <li>WORK TRIP</li> <li>トチギシゴトフェス</li> <li>UIJターンプログラム(県外)</li> <li>地方で働く人図鑑</li> <li>LIFE CARD</li> <li>ローカルスタディ・ツアー in とちぎ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中小企業の衰退、人材不足</li> <li>地域の若者のキャリア形成の機会不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大手の「就活サイト」には掲載されていない、魅力ある地元企業を学生に紹介。また学生も地元企業への興味・関心を高めて就職を選択</li> <li>UIJターンプログラムでは都市部の若者135名へサービス提供を行い、栃木県の仕事や取り組みへの興味関心層の拡大に寄与</li> </ul>
<p><b>地域担い手定着支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>とちぎ地域イノベーター誘致・養成事業「はじまりのローカル コンパス」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方都市の活力低下</li> <li>農山村／地方都市を担う若手人材の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市部の若者参加者のべ101人へ地域づくり参画の機会を提供</li> <li>都市部の若者がそれぞれのスキルを活かした関わり（WEBサイトの制作やイベントへの出店、ツアープランの制作など）により、自己実現の機会と地域の活性化に貢献</li> <li>栃木県の地域づくり団体が地域の魅力や団体の取り組みを通して、メンバーからの声や協力を得ることで、協力者や都市部の関係人口が増加し、地域の再評価や活動の加速に寄与</li> <li>地域づくり団体の取り組みを可視化、メディアとの連携を通して広く全国へ取り組みを発信</li> </ul>
<p><b>とちぎ手仕事支援プロジェクト FukuFuku</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災地の課題解決を担う若手人材の不足</li> <li>被災地でのコミュニティ衰退、いきがい・やりがい低下</li> <li>震災の風化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加人数231人と協力者34人に対する復興支援活動への参画機会の提供</li> <li>協力店舗との新しいコラボイベント開催によるネットワーク強化と新しい層の参画</li> <li>売上個数156個、総売上金額52,560円分の作り手への仕事の提供による生きがい・やりがいづくり</li> <li>復興に取組む若者を取り上げたフリーペーパーの発行による今の被災地についての情報発信</li> </ul>

実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」

JT助成事業「地域コーディネーター養成」・宇都宮大学「課題発見・解決型インターンシップ」



「成長と挑戦」×「価値創造」

まちづくりや社会課題に取り組む組織が抱える「課題の解決」や「次の一手を創る」現場をフィールドにしたインターンシップ。

成長意欲のある若者には、「より本質的な力」を、受入組織には、「社内の変化と新たな価値」を生み出している。

※インターンシップ…「自らの専攻や将来のキャリアと関連した分野において、主体的役割を果たす事を通じて社会的価値を創造していく精神と力を身につけ、学生生活及び自立的キャリアデザインにフィードバックすること」(当会の定義)

実践型インターンシップ事業 プロジェクト状況

新たな森づくりの担い手開拓プロジェクト

受入組織 / NPO法人とちぎ環境未来基地  
 期間 / 2015.6.1-10.31  
 内容 / 現場体験プログラムの広報・運営  
 学生・若者に向けた報告会・交流会の実施  
 参加者 / 吉田直樹(宇都宮大学農学部)  
 成果 / 情報発信力の強化、若者のボランティア参加、継続した情報発信の仕組みの構築

薬物依存者の将来の支援メニューを創造する社内アイデアのヒアリングプロジェクト

受入組織 / 特定非営利法人 栃木DARC  
 期間 / 2015.11.25-2016.2.16  
 内容 / 新たな支援メニューにつながるアイデアのヒアリング、マーケット調査、アイデアの発表  
 参加者 / 目黒雅結(宇都宮大学国際学部)  
 成果 / 社員のアイデアの取りまとめ、7つの新規事業の提案、未来を話しあう機会の作成

スポンサー企業紹介資料作成プロジェクト

受入組織 / NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク  
 期間 / 2015.4.20-8.31  
 内容 / スポンサー企業の若者への想いを発信する  
 参加者 / 高橋伸明(国際医療福祉大学医療福祉学部)  
 成果 / 広報誌「若者チャレンジレポート」若者を応援する会社がある」の完成・発行。

地域に新たな動きを創り出す

コーディネーター養成プロジェクト  
 受入組織 / NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク  
 期間 / 2015.6.1-12.1  
 内容 / 実践型インターンシップ事業において組織ニーズ・若者・外部資源をつなぎ事業を拡大する  
 参加者 / 門間大輝(国際医療福祉大学医療福祉学部) 渡辺明里(宇都宮大学農学部)  
 成果 / NPOにおけるインターン導入事例の拡大、コーディネーターに必要な事項の整理

ソーシャルビジネススタートアッププログラム構築運営

受入組織 / NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク  
 期間 / 2015.7.1-12.11  
 内容 / ソーシャルビジネスフォーラムとセミナーの企画運営と実施  
 参加者 / 吉井渚(宇都宮大学院農学部)  
 成果 / ソーシャルビジネス支援プログラムができた。延べ113人の参加者。

チームワークを高めよ！ 女性と子どもをみんなで守る、ケース支援会議創設プロジェクト

受入組織 / NPO法人サバイバルネットライフ  
 期間 / 2016.3.1-(2016.5.31現在継続中)  
 内容 / 会員、ボランティア参加による課題・支援策共有の場づくり  
 参加者 / 三上果南子(宇都宮大学国際学部)  
 成果 / チーム内での企画提案、調整中(実施途中)

＜宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップ:協力事業＞

ホームゲームに若者を

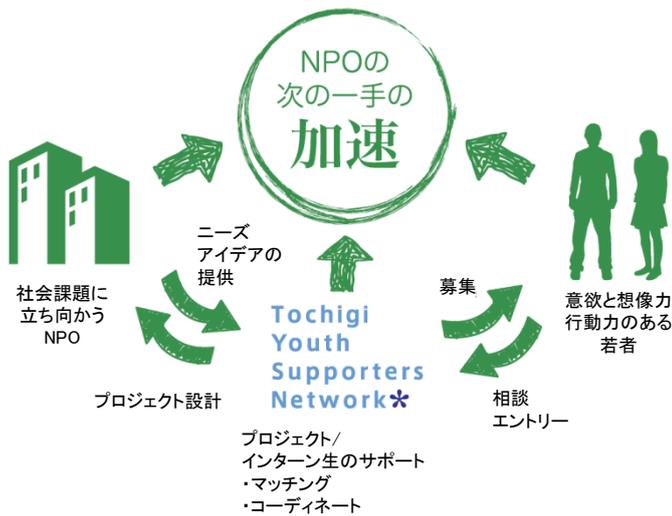
受入組織 / 株式会社リンクスポーツエンターテインメント  
 期間 / 2015.8.9-10.18  
 内容 / 開幕戦に多くの学生が集まる仕組み・プログラムをつくる。  
 参加者 / 今井咲希 (宇都宮大学教育学部) 佐藤汐 (宇都宮大学国際学部) 栗原万由香 (宇都宮大学国際学部) 福山明音 (宇都宮大学農学部)  
 成果 / 学内での推しメン(選手)投票、開幕戦ハーフタイムでの学生ダンス/バトル、アカペラ/バトルの実施など、学生企画をハーフタイム導入を実現

＜宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップ:協力事業＞

脱レジャー施設。これからの時代の動物園の在り方、魅せ方を考えよ。

受入組織 / 宇都宮動物園  
 期間 / 2015.8.17-9.30  
 内容 / 教育施設としての動物園の在り方、魅せ方を調査研修し、提案。  
 参加者 / 加藤大樹 (宇都宮大学院農学部) 中村春日 (宇都宮大学国際学部) 新谷綾音 (宇都宮大学国際学部)  
 成果 / 職員による動物観察記録の公開と観察発表会の実施を提案。

## 実践型インターンシップ 図解



	一般的なインターンシップ	実践型インターンシップ 『GENBA CHALLENGE』
分類	見学型・研修型	長期実践型
期間	2週間程度 (90時間)	1か月から数ヶ月(150~300時間以上)
参加期間	休暇中のみ	休暇中:週3~5回 学期中:週2回など
社内での位置づけ	研修生	期間限定の社員
学生への期待	貪欲な学習意欲 学生ならではの意見	プロジェクトの成功・特定の役割遂行 課題発見・解決
受入側の目的	採用活動の一環 社会貢献	事業・組織の発展
窓口	人事部	経営者・事業責任者
人材育成目標	職業意識の醸成 仕事への理解	起業家的な思考・行動特性の獲得 課題発見・解決能力の獲得
その他	Campus web等のwebで募集 企業情報を見てエントリー	プログラムサイト「SOZO」で募集 当会が受入プログラムを設計

- ・ 受入団体の「変化させたいニーズ」と「アイデア」に基づき、当会がプロジェクト案を設計。受入団体と協議した後、そのプロジェクトにインターン生を募集し、マッチング。
- ・ インターン生の受入後、受入団体に担当者(スーパーバイザー)を配置していただき、インターン生は担当者の右腕となり動いていく。当会もプロジェクトやインターン生のサポートを行うために伴走する。

## 活動した若者の声&活動実績



### 利用者のことを考えぬいた時間に見つけた、たくさんの気づき。

インターンを通じて「変わろう」とする、変わらなきゃいけない生活をしている利用者の人々を見て、すごく後ろめたい自分がいました。変わらなきゃいけないところにフタをしている自分、ごまかすことができていない自分に気づきました。自分の弱いところをごまかすこともできないのだから、目を背けず、むしろしっかり向き合って時間をかけて取り組みました。どうやったら利用者が「楽しい!」と思うか、「元気づけられるか」「ワクワクするか」、笑顔になる利用者のことを想像しながら事業を考えていた時間は楽しさでいっぱいでした。

目黒雅結(受入組織/特定非営利活動法人 栃木DARC)



### ミッション達成という貢献と1ランク上の経験。

プロジェクトのミッションである若者や学生の活動への参画を広げていくことは想像以上に大変でしたが、友人に話すことから始め、これまでつながりがあった人たちがボランティアに参加してくれ、その後も定期的に参加してくれるようになったことについて達成感を感じています。全体としてとても貴重な5か月間でした。組織内でのミーティングでの先輩から得る経験、自分が進行するミーティングでの準備の重要性、現場での運営の中でのメンバーを見ることなど、外側からでは得ることのできないことがたくさんありました。

吉田直樹(受入組織/NPO法人トチギ環境未来基地)

## メディア掲載



2016年2月25日(木)読売新聞31面(栃木面)



2015年6月26日(金)  
下野新聞21面(地域面)

プロジェクト数: 9  
インターンシップ参加人数: 16名  
のべ活動時間: 2,810 時間  
受入れ大学:  
宇都宮大学/国際医療福祉大学/  
協力者: 18名

### 成果

- ・ NPOを受入組織にしたNPO向け実践型インターンシップを始動し、高いマッチングができた。また、JT NPO助成のご支援も受け、内部のコーディネーターの育成のポイントを抑え、ノウハウを蓄積することができた。

### 課題

- ・ 企業向けのインターンシップが実施できなかった。また潜在的インターン生の掘り起こしの動きが弱く、動ききれなかった。

若者による社会を良くするスタートアッププログラム「iDEA → NEXT 2016」



とちぎの新しい物語をつむぐ

ヒトとマチがイキイキとした地域を創るため、社会に新しい価値を提供する若者を数多く輩出し、地域の困りごとの解決や社会を良くする活動を促進する、若者がチャレンジするステージ「iDEA→NEXT」。また若者のアイデアやアクションを見える化し、企業や地域で活動する人々と若者が繋がる場でもある。これまでで24組の若者を輩出しており、今年で4回目の開催になる。

栃木県には、他の地方と同様に様々な社会課題が山積しており、困っている人たちが多く。そんな中、「社会貢献」や「地方」といった価値観を大切にしている若者が増加している。

内閣府「社会意識による世論調査」によると20代の若者が「何か社会のために役立ちたいと思っている」割合が、45% (2002) → 70% (2012) となるなど、確実に若者の意欲は変化しつつある。

それと同時に、厚生労働省「若者の意識に関する調査(2013)」によると「日本の未来を良くしよう」という意欲の質問では、「考えてはいるが、具体的にどのようにすべきかわからない」が26.8%との結果も。想いを持ちながらもアクションを起こせていないこの環境を変え、社会を良くする活動を促進するため、本プロジェクトを実施している。

地域では若者が育まれる現場が少なくなってきた。若者を育むのは学校だけではなく、企業やNPO、地縁組織など様々である。栃木県内で若者を育み、活かし、また次の世代を育てていく。栃木県で新しい芽が次々生まれ、地域の課題を解決していくエコシステムを構築している。



とちぎの新しい物語をつむぐ

今年はいこれまでのコンテスト形式から「若者が社会をよくするスタートアッププログラム」と主旨を変更し、これまでより一層エントリー者のアイデアブラッシュアップに注力。その一環として、今年度は書類審査を撤廃しエントリー者全員ブラッシュアップに参加する仕組みとした。2015年10月3日(土)の「ソーシャルビジネスフォーラム」をキックオフイベントとし、今年もアイデア募集を開始。社会的起業(ソーシャルビジネス)を学ぶ「ソーシャルビジネスセミナー」を開催し、12月10日までアイデア受付期間とした。

今年もエントリー者の初顔合わせとなる合宿型のアイデアブラッシュアッププログラム「iDEA→NEXTギャザリング」を実施。まず栃木県を代表する社会起業家の一人、有限会社ドカンメ代表取締役 小久保行雄氏にソーシャルビジネスの必要性や事業化することの大切さなどお話をいただいた。

また午後からはエントリー者たちによるアイデアプレゼンテーションを実施。中小企業診断士の資格を有し、栃木県付近で古民家カフェ「cafe Mario ~休みの国~」を運営している株式会社キップルネットワーク代表取締役 清嶋磨利夫氏からも起業についてのお話をいただいた。

その後はいよいよこの合宿の目玉、県内の先駆的事業者の皆様(メンター)にご協力頂いてのブラッシュアップに。こうして今年度のiDEA→NEXT2016は幕開けとなった。

“iDEA→NEXT”の流れ



毎週夜にエントリー者が集い、ギャザリング同様、エントリー者たちとメンターとの熱い話し合いが続く、ブラッシュアップ研修も1月26日(火)よりスタート。集まりは夜にも関わらず、中には日付を跨ごうかというほど、話し合いが続く日も。3月1日(火)にはファイナルプレゼンテーション登壇者(ファイナリスト)を決定するプレゼンテーション審査を実施。エントリー者はここまでは全員参加だったが、ここで一定の成果を求められることになった。今年度よりiDEA→NEXTと連動している宇都宮大学講座「起業の実際と理論」のコンテストでグランプリを獲得した1組も合流。厳正な審査の結果、選ばれた10組が13日のファイナルプレゼンテーション登壇者(ファイナリスト)に決定した。

## ファイナルプレゼンテーションと総括

ブラッシュアップによって磨き上げてきたアイデアを広く発信するファイナルプレゼンテーションを、3月13日(日)宇都宮大学峰キャンパス峰が丘講堂で開催。当日は多数のオーディエンスの皆様にご参加いただくことができた。

当日のプログラムのメインは以下の3つ。

- 10組のファイナリストによるアイデアプレゼンテーション
- ファイナリストと参加者が交流するミニポスターセッション
- 2015グランプリ キーデザイン土橋優平氏による活動報告

1月のスタートから2ヶ月間のブラッシュアップを経た珠玉の10組のアイデアプレゼンテーションは、緊張の色も見受けられたが、2ヶ月間の自信がそうさせるのか、堂々としたプレゼンテーションが続き、時間の長さを感じさせないほどに、あっという間に過ぎていった。オーディエンス(一般観覧者)の方もじっくり聞き入っている様子が印象的であった。



投票や審査の結果、各賞の受賞は以下の通りとなったが、アイデアは実現してこそ価値がある。本取組みから輩出された若者たちの活動を引き続きサポートし、栃木県内に生まれた新たな火を引き続き応援し、地域に価値を生み出す若者を輩出するためにも、継続してこの取り組みを行っていく。

これまで実施してきた経験から、ファイナルプレゼンテーションまでのブラッシュアップの価値を再確認し、これまでのメンター制に加え、会員から有志を募り、伴走者として若者を支えていただくことができた。多くの方のご協力とブラッシュアップにかかる時間を増やしたことで、どのアイデアも実現性があり、これからを期待させるものになった。この事業を実施する上で、メンターとして関わってくださった多くの方、賞金や運営資金に協賛してくださった企業や個人の方のお力添えがあって実現することができたことを心より感謝申し上げます。

### ファイナリストの声

- 伝えたい内容や知っていること、やりたいことがたくさんあって、情報をわかりやすくシンプルに提供することができていなかった。今回参加して明確になった。私の考えていることや、やろうとしていることを肯定してもらったり、応援してもらえたことがとても大きな力になった。思っただけでも、ひっそり考えていただけだったので。表現する勇氣をもらいました。
- 栃木県内に、こんなにも熱意があり、社会課題解決に取り組んでいた方々のネットワークがあることを初めて知った。今後自分が多く直面するであろう「生みの苦しみ」を経験できた。一つの経験と結果を出したことで、今後行動をしていく原動力のようなものが自分の中に生まれた。
- アイデアブラッシュアップをしていく中で、自分が本当にやりたいことが見えた。様々なつながりや応援してくれる人ができた。(一部抜粋)



協賛企業:13社 個人寄付:17名  
メンター/審査員:19名  
後援・協力企業/団体:25社/団体  
運営/WEB/DTP/VIDEOボランティア:12名

### ファイナリストとそのアイデアたち

- ①ママの不安がワクワクに変わる「超ローカル！地域情報シェアサイトMaiMachi」  
MaiMachi(マイマチ)  
河合 明子/岩本 恵利/栗田 泉/渡辺 亮太  
**とちぎんぐッドアイデア賞**
- ②居場所プロジェクト  
林 和輝
- ③くま塾プロジェクト ~すべての子供が活躍できる場所をつくりたい~  
くま塾プロジェクト  
大谷津 孝太郎/橋本 紗由理
- ④うつのみやコミュニティガーデン  
小林 かぐみ  
**オーディエンス特別賞**
- ⑤大学生生活の満足度向上×地域活性化プロジェクト  
~栃木県の大学だからこそできる地域と大学生の環(コラボ)~  
粟野 倫世
- ⑥自分たちでナリワイを創る家  
~発達障害者の自立を支えるシェアハウス~  
中尾 真人  
**グランプリ**
- ⑦学生が運営する子どもの居場所カフェ ~子どもが安心、第二の我が家~  
小田部 江莉
- ⑧動いて、心地よい学びを！ ~ようこそ！教育の新しいステージへ~  
福田 燈
- ⑨今の仕事以外に『やりたいこと』は何ですか？  
~『おとなの部活』@宇都宮.どっとこむ~  
脇本 崇
- ⑩楽しむ、つながる、変わる。アダルトチルドレン人生再出発プロジェクト  
阿部 寛  
**審査員特別賞**

今年度は協賛を頂いた株式会社栃木銀行様による「とちぎんぐッドアイデア賞」を設置。  
 ・ 審査員特別賞は審査員による選考で選ばれたアイデア  
 ・ オーディエンス特別賞は最も多くのオーディエンスから支持を集めたアイデア  
 ・ グランプリはオーディエンスと審査員の両方の支持を集めたアイデア  
 ※企業賞はそれぞれ協賛企業の方々が直接選ぶことができるシステム

### 成果

- 企業やNPO・行政など実際に活動されている方々によるメンタリングによって、アイデア応募者自身の成長とアイデアの質が高められた。ファイナリストがメンターやこれまでに輩出した若者たちと繋がることによってアイデアが広がり、行動を加速させるなど、学外/社外の地域で若者を育てていく土壌とその生態系を作り出すネットワークとして機能し始めた。
- 学生・若手社会人など様々な立場の方々からのエントリーがあり、これまで「何かしたいけど、どうしていいかわからない」層が活動するきっかけとなり、地域で活動する新たな人材を輩出できた。

### 課題

- 4回実施する中で、多くの若者たちを輩出してきた。次のステップとして、彼らのその後のフォローを充実させ、アクションへとつなげていく仕掛けを整える必要がある。会員のノウハウを結集し、現状のスキームから更に多くのヒト・モノ・コトを巻き込む仕掛けを検討していく。

## 宇都宮市創業支援事業「ソーシャルビジネスセミナー」・「ソーシャルビジネスフォーラム」

宇都宮市産業力強化事業の一環として位置づけられており、中小企業診断士協会や銀行、経営者団体、他の支援機関と連携し実施。ソーシャルビジネス分野は、平成20年度時に市場規模2,400億円、雇用者数3.2万人(経済産業省「ソーシャルビジネス研究会報告書」)で、「新成長戦略(H22閣議決定)」や「産業構造ビジョン2010(H22年経済産業省)」等にも位置づけられている。更に当会でもソーシャルビジネスに関する相談が増えている(30件/年)ことから、地域課題を自らの手で解決し、事業として取り組むことへの市民ニーズは高いものと感じていることから開催している。

### ソーシャルビジネスフォーラム

ソーシャルビジネスの理解促進と興味関心を喚起するために開催。フォーラム形式でソーシャルビジネス実践者の講演や、分科会で社会課題に対して活動している企業経営者とともにソーシャルビジネスに対する理解を深めていく。

参加者同士の交流や実践者との人脈を広げることも目的。  
 <講演者>  
 ・株式会社大地を守る会 藤田 氏 ・株式会社PEER 佐藤 氏 ・NPO法人キズキ 安田 氏



### ソーシャルビジネスセミナー(全4回)

社会起業家を輩出、育成するため、ソーシャルビジネスでの起業に向けた入門セミナーを開催。各回に、先輩となる社会起業家や栃木県内の社会課題解決実践者などを講師としてお招きし、事例の提示によるイメージの具体化や起業での社会課題解決の意識向上、そして行動に移す方法について、講義を行った。ワークショップ形式も盛り込み、より主体的に考える力を養うセミナーとなった。

<講演者>  
 ・NPO法人atamista 市来 氏 ・NPO法人NPOサポートセンター 笠原 氏  
 ・NPO法人くまの木里の暮らし 加納 氏 ・NPO法人だいじょうぶ 畠山 氏  
 ・NPO法人トチギ環境未来基地 塚本 氏



参加人数(のべ):113人 活動時間:302時間 協力者(のべ):14人  
 フォーラム・セミナーからの「iDEA→NEXT」へのエントリー組数:4組

#### 成果

- ・ 栃木県での講演が初めてである講師の方々を県外からお招きし、参加者の方々に知られていない社会問題やその課題解決のための仕組みを知って頂くことができた。
- ・ セミナー参加者のうち4名が、iDEA→NEXTにエントリーし、アイデアのさらなるブラッシュアップへつなげることができた。

#### 課題

- ・ フォーラムとセミナーを通してなお、ソーシャルビジネスの認知がまだまだ進んでいないと感じた。どのように分かりやすく伝えていくかが今後の課題。
- ・ セミナーでのワークショップの時間不足。

## 大学コンソーシアムとちぎオリジナル科目「起業の実際と理論」

### 大学生×起業家精神

宇都宮大学キャリア教育・就職支援課と宇都宮市産業政策課と連携し、次世代の起業家を育成する宇都宮市起業家養成事業では、ベンチャー企業の事例や実際の起業家との対話を通じ、「起業」という社会活動について学習し、これからの若者に必要とされる資質や起業家精神(アントレプレナーシップ)を養う。また、実際に自らのビジネスアイデアを考え他者にプレゼンテーションすることで企画・提案の楽しさを体験するとともにビジネスに必要な基礎的なスキルを習得する。

日時:平成27年10月より毎週火曜14:30-16:00 全15コマ  
 場所:宇都宮大学ラーニングコモンズ3 受講生:24名(学生10名、社会人14名)

#### カリキュラム内容

概論/起業におけるマインドと概要

ビジネス基礎/

起業におけるコンセプトづくり :ファーマーズフォレスト 松本謙 氏  
 ターゲット設定、マーケティング:サクシード 水沼啓幸 氏  
 会計、取引、資金調達 :とちぎ労働福祉事業団 田中義博 氏  
 プレゼンテーション :児玉税経 児玉博利 氏  
 チームマネジメント :UI支援コンサルティング 小貫弘之 氏  
 先輩経営者に学ぶ :キッズコーポレーション 大塚雅斗 氏

:CREW 伊川夢起 氏

:ロイズITサポート 元山良 氏

ビジネスアイデアづくり :とちぎユースサポーターズネットワーク 古河大輔

ビジネスアイデア発表、ビジネスプランブラッシュアップ、交流会



### うつのみや起業家フォーラム

全国的に活躍する起業家のロールモデルの歩みや想いなどを直接触れることにより起業家精神を育む。

日時:平成27年12月15日 16:30-18:30

場所:宇都宮大学UUプラザ2階

参加者:44名(受講生、一般参加者)

ゲスト:ケアプロ 川添高志 氏

参加人数(のべ):277人 活動時間:437時間  
 協力者(のべ):15人 受入/協力企業:10社

#### 成果

- ・ 受講生の満足度と理解が高かったことに加え、受講者がiDEA→NEXTへエントリーしたり、それぞれの次のアクションに踏み込む動きが広がることになった。

#### 課題

- ・ 当初、栃木県内の大学生を受講対象者にしていたが、結果的に宇都宮大学生と社会人の方の参加であった。所属大学以外での受講においては、移動の時間や心理的ハードルがあることが分かり、日頃からアントレプレナーシップを育てていく必要がある。

「地域中小企業の人材確保・定着支援事業」

学生の働く×魅力的な中小企業

栃木県にはたくさんの魅力ある中小企業・小規模事業者が存在する。しかし、大手就職サイトなどに就職活動の手段が限られてきており、若者が魅力ある企業と出会う機会がほとんどないのが現状である。そこで中小企業の魅力発信と将来を担う若手人材のキャリアサポートを目的とし、2013・2014年度に引き続き、株式会社ティビィ・スキヤットから事業発注を受け実施した。これまでの実績から、県内大学のキャリアセンターや先生方の信頼も得られ、学生と企業の両者からのニーズにマッチしたプログラムを行った。また首都圏に住む若者へ栃木県内の仕事・企業の魅力を伝えるUIJターンプログラムも実施し、これまでのノウハウを活かして、新たなフィールドに活動領域を広げている。

働く人図鑑(計6回、4大学89名)

内容: 魅力的な中小企業の経営者や社員の話を聞く動機づけプログラム  
 実施大学: 文星芸術大学、作新学院大学、宇都宮共和大学、帝京大学  
 ゲスト: フロントデザイン 鈴木裕也氏・杉山裕美氏/五光宇都宮店 木内裕祐氏・石川慎二氏/ユーキャン 山田義治氏・加藤英生氏/ドクターリフォームサンセイ 山口弘人氏・関浩平氏/グリーンデイズ 林書緯氏・関めぐみ氏/はやく風 岩崎崇氏・後藤哲也氏



トチギシゴトフェス(計1回、4大学81名)

内容: 「働く不安」に会社が答え、会社を見せる就職イベント。  
 開催場所: 宇都宮共和大学  
 出展企業: キッズコーポレーション/大和鋼管工業/栃木銀行/グリーンデイズ/高久組/宮食/シーデーピージャパン/サムライトサムシング/オカモト/ダンクソフト/ファーム・アンド・ファームカンパニー 計11社



ホンキのインターンシップ2week in とちぎ(1企業、1名)

内容: 地域で活躍する企業の現場でプロジェクトを加速させるプログラム  
 実施大学: 宇都宮大学  
 受入先: コーチ精機

とちぎの 社長留学 3days(3社、5名)

内容: 地域密着型企業経営者の3日間のかばんもち  
 実施大学: 宇都宮大学/東洋大学/国際医療福祉大学/目白大学  
 受入先: オーリアル/CREW/優貴会

WORK TRIP(計2回)

内容: 「旅するように仕事に出会う」をコンセプトに、本やネットなどの机上だけではわからない「会社ってどんなところ?」を実際に訪問し、働く人たちの話を聞くフィールドワークを通して、仕事と地域の魅力を満喫するツアー。

UIJターンプログラム(県外)

地方で働く人図鑑(計2回)(※写真左)

内容: 目白大学地域社会学科の大西教授と連携し、「まちづくり×観光」をテーマに取り組んでいる栃木の企業をゲストに招き、地方で動き出している新しい取り組みと仕事のリアルと地方で働く魅力を学生へ発信。

ゲスト:  
 大田原ツーリズム 藤井大介氏  
 ネイチャープラネット 坂内剛至氏



LIFE CARD

内容: 栃木県出身者や栃木県と関わりのある若者たちが集まって「地元での仕事」や「移住」をボードゲームを使って考えるイベント。これからの人生をシミュレートするボードゲームを参加者自身でつくり、プレイしてこれからの仕事や暮らしを描くワークショップ。



ローカルスタディーツアー in とちぎ(※写真右)

内容: 栃木県日光市で若い世代が中心となって取り組みをすすめている「まちづくり×観光」の取り組みに、首都圏の大学生が参加し、地方の基幹産業である観光業の仕事を体感するプチインターンシップ。

参加人数(のべ): 417人 活動時間: 1,559時間  
 協力者(のべ): 91人 受入/協力企業: 27社

成果

- 若者に「働く」や「仕事」に触れる機会と想いを高める実践的な挑戦の場を提供し、仕事への意欲やキャリア選択の充実、また栃木県の魅力的な中小企業の発信を行うことができた。若者が県内の中小企業に目を向けることで、中小企業自身にも若者を活かす方策や環境を検討する機会になっている。
- これまで本格的には取り組んでこなかった都市部の若者に向けた取り組みをスタートできた。「栃木県に戻ってきたくても情報やつながりが無い」といったニーズは以前からあったが、そうした若者の取り込みは今後の地域づくりに重要となっている。

課題

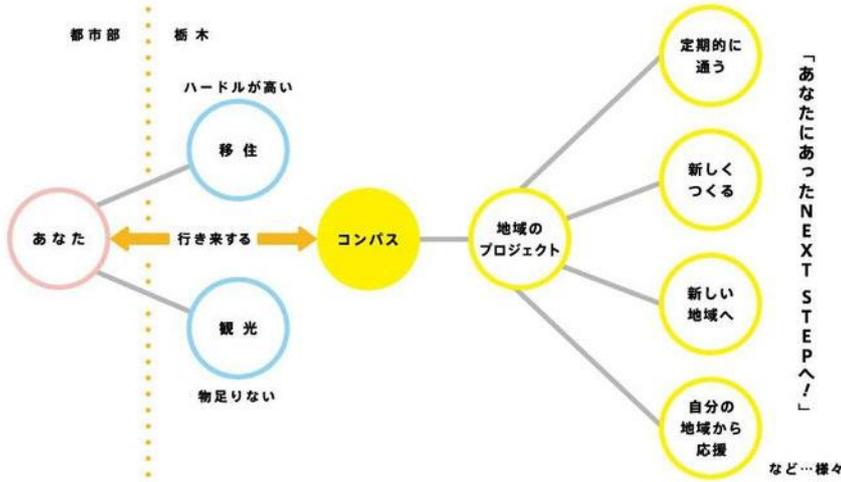
- 昨年と同様になるが、学生が企業や社会へ求めるものと企業が学生に求めるもののギャップが感じられ、中小企業へ目を向ける機会の継続性の大切さを実感している。就活を意識した3年生より前の段階からの学生への情報発信など継続的な取り組みが求められている。

## とちぎ地域イノベーター誘致・養成事業「はじまりのローカル コンパス」

### 都市部に住みながら、栃木県の地域プロジェクトに行き来する

栃木県へのUIJターンを検討している(又は興味・関心がある)東京圏在住の若者と、実際に栃木県にUIJターンし活躍する地域リーダーや地域活性化プロジェクトを継続的・有機的に結びつけることで「UIJターンの促進」・「これからのとちぎを支える若者の育成」・「外部人材が継続して地域に関わることによる地域活性化」を目指すプロジェクト。移住ほどハードルが高くなく、観光よりもより地域に関われる機会を創出することで、都市部に住みながら栃木県の地域づくりに関わってくれるファン(関係人口)を増やすツアーを開催。

- ・ 「移住」を打ち出すのではなく、栃木県の東京圏との近接性を活かし、「都市部に住みながら、栃木県の地域プロジェクトに行き来する」という、これまでになかった地域との新たな関わりを提案した。
- ・ 大都市では実現できない「価値観を大切に暮らす」、「自分の足跡を残す自己実現の機会」や「世界を広げる新たなネットワーク」を提示し、また他県との差別化を図るために地域ニーズを盛り込んだ魅力的な地域プロジェクトと関わる人々を可視化し、地域づくりに参画できるツアーを行った。
- ・ 東京圏に住む若者のパフォーマンスを最大限活かす場を用意し、変革を求める地域と地域にないスキルや視点を持った外からの人材をマッチングさせ、両者にWin-Winの関係を提供した。



#### 東京での説明会やイベント

- ・ 8/23(日)プロジェクト説明会
- ・ 9/12(土)地域仕掛け人市出展
- ・ 10/4(日)トークイベント「あなたのローカル、見つけませんか？」

#### 栃木のひととまちを知る、1泊2日の気軽なローカル体験「ミツカルツアー Short」

- ・ 10/16(土) - 17(日) (那須町)
- ・ 11/28(土) - 29(日) (鹿沼市)

#### ローカルの魅力にどっぷり浸る！地域プロジェクトに関わる全4回の実践編「ミツカルツアー Long」

- ・ 第1回目 オリエンテーション  
10/10(土)  
会場: いいオフィス(上野)
- ・ 第2・3回目 フィールドワーク  
**まちなか編 栃木市**  
11/14(土) - 15(日)  
12/12(土) - 13(日)  
**さとやま編 茂木町**  
10/24(土) - 25(日)  
11/22(日) - 23(月祝)
- ・ 第4回目  
2/6(土) ツアー報告会「あなたのローカル、見つけましたか？」  
会場: 宇都宮大学 UUプラザ(宇都宮市)

### 参加者の声

- ・ 栃木には全く縁のない人間だったが、気持ちは同じものを持っている方々とたくさんお話ができました。実際に地域に根ざして行動されてる方々で本当に貴重な体験でした。まずはやってみて、悩んでみるのが大事だと思いました。
- ・ 泊まりに行けるほどの仲の良い友達が増えたような気持ちになりました。お店やスポットに魅力があるのももちろんだけど、あの人に会いたいから行く！という気持ちになりました。また近いうちに行きます！
- ・ 都市部とローカルを自分の目で、立場で、体で体感し比較検討し自分自身の見解や今後の方向性のヒントにもなりました。決して便利な都市部だけが住みやすい場所ではないのだと確信することができました。
- ・ 何よりもよかったのは地域のひとと知り合いになれたこと。自分の知ってる人が増えるのはとてもココロ強く感じています。

(一部抜粋)

### 実施体制

事務局: NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

デザイン: KOREKARA 井出めぐみ氏

プログラム協力団体:

- ・ 鹿沼宿旅館再生プロジェクトCICACU(鹿沼市)
- ・ 那須ゲストハウスDOORZ(那須町)
- ・ マチナカプロジェクト(栃木市)
- ・ もてぎ里山らいふプロジェクト(茂木町)

ゲスト(スーパーバイザー):

- ・ NPO法人マチノコト(江口晋太郎氏、モリジュンヤ氏、工藤瑞穂氏)
- ・ 甲斐良治氏(季刊 地域 元編集長)
- ・ 松浦伸也氏(すみだ青空市ヤッチャバ 事務局長)



参加人数(のべ): 127人 活動時間: 790時間  
協力者(のべ): 56人 受入団体: 4団体

### 成果

- ・ ツアーを通して都市部の人材と地域プロジェクトのマッチングにより、Webサイト制作支援や栃木県素材の商品開発など8つの新しい取り組みが生まれた。
- ・ 参加者の自己実現や地域に新しい居場所をつくることができた。
- ・ 外部人材を受け入れた地域プロジェクト団体がコンパスをきっかけに地域との関わりを強めたり、継続して関わる関係人口を獲得した他、法人化し活動を広げるなど、次のステージにすすんだ団体が生まれた。

### 課題

- ・ 地方暮らしに興味ある若者とは出会うものの、ツアー参加まで至らないケースも多かった。全国でUIJターンの取り組みが盛り上がっているの、他との差別化を図り、広報PRの一層の注力と来なくなる仕掛けを工夫する必要がある。

「とちぎ手仕事支援プロジェクト FukuFuku」※「5」のつく日。JCBで復興支援プログラム助成(フィランソपीバンク)事業

とちぎから今できること、若者による復興支援活動

とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFukuは復興支援への若者の参画機会の創出を図りながら福島県の被災者における生きがいづくりやコミュニティづくりを目的として2012年立ち上げ以来、今年で4年目を迎えた。

今年も継続して(1)復興支援商品の栃木県内での販売促進・イベントへの出店(2)協力店舗とのコラボイベントの開催(3)震災の風化を防ぐための情報発信やイベント企画等、若者の主体的な取組みとして実施できた。震災から5年が経ち関心の低下が進む中、協力店舗との新しいコラボイベントが企画でき、ネットワークの強化や新しい層の参画を促進できた。また復興に取組む若者を取り上げたフリーペーパーを発行することで、栃木県内に被災地の今を発信することができた。今、被災地では状況変化が著しく新たな課題が生じている。そのため次のステージへの活動の展開をしていくにあたり、来年度からはオーダーメイド型商品開発の本格稼働や復興公営住宅での活動を予定している。

FukuFukuの役割

1. 商品に込められた想いとその物語を伝えています。
2. 使う人の反応をフィードバックしています。
3. 作り手・売り手・使い手(買い手)の3者が出会う場をつくっています。
4. 販売する店舗の想いを発信しています。



(1)販売協力店舗と消費者の開拓

「協力店舗とのコラボイベント」

内容 実施回数:3回 イベント参加人数:のべ92人

- ・ **手と手でひろがる～震災読書会～**  
震災支援×読書会イベント。震災に関して学び、共有する時間。  
協力店舗:café Mario
- ・ **手と手で伝わる～残暑お見舞い書き方教室～**  
相手に想いを馳せ、手書きで残暑お見舞いを書くことを通して、手で生み出されたものの良さ、そこに込められた想いを体感するイベント。  
協力店舗:Café Mario
- ・ **手と手をつなごう～ワークショップ・みんなつながる小物づくり～**  
絵本作家さんをお招きしての手仕事商品の端切れを活用した小物づくり。  
(小学生対象)  
協力店舗:BOOK FOREST

(2)生産者に会い、商品の物語を知るバスツアー

内容 実施日:8月28日(金) 参加者数:11人 協力団体数:3団体

- ・ **手と手が出会う旅 2015 summer**  
木田ファーム訪問・いわき市内見学(浜風復興商店街 等)

(3)商品のプロモーション活動「既存イベントへの出店」

内容 実施回数:5回 売上金額:45,840円(イベント内)

- ・ **サードデーナイトフィーバー**  
商品販売
- ・ **DenDenまつり**  
商品販売・活動紹介
- ・ **森と里のつながるマルシェ**  
商品販売
- ・ **オモイツエル3.11**  
商品販売・活動紹介

買うで広がる笑顔の輪

「こうやってみんなとおしゃべりしながら、作業に夢中になれる時間が、私たちににとってはすごく大切なんだよ。」

これは福島県いわき市のとある仮設住宅で出会った1人の女性の言葉です。商品を知ってもらい・購入してもらい…それが生産者の仕事だけでなく、仕事場というコミュニティややりがいを生んでいます。

FukuFukuが大切にしているのは、『笑顔』。

商品を作る生産者が楽しい時間で『笑顔』になる。

販売する店舗が商品のことを知り『笑顔』になる。

買い手が素敵な商品に出逢い『笑顔』になる。

そんな『笑顔』のたくさん広がっていく活動を継続して行っています。

サポートしている手仕事商品製作団体

広野手芸有志 福島県広野町

広野町からいわき市に避難し、仮設住宅に住むおばあちゃんたちが手作りで商品を作っています。どの商品も素材やデザインにこだわっており、1つ1つ丁寧に作られています。パワフルなメンバーの方々は、新商品を続々開発しています。

NPO法人ザ・ピープル 福島県いわき市

20年以上前からいわき市を中心に古着のリサイクル業に携わっています。震災後はいわき市で災害のボランティアセンター運営といわきオーガニックコットンプロジェクトを行っています。

自立研修所ピーンズ 福島県南相馬市

手仕事商品の製作・販売を通して、障がい者の雇用支援を行っています。温かい雰囲気でのピーンズでは様々なアイデアを用いたり、外部からの協力で、新商品の開発にも力を入れています。

NPO法人トチギ環境未来基地 栃木県益子町

環境安全を通じて、人と緑を育む活動を続けている団体です。津波によって大きな被害を受けたいわき市の海岸林。美しい景観と海岸林本来の機能を取り戻すために、2012年より市民の力で海岸林再生を目指す「苗木forいわき」プロジェクトに取り組んでいます。

2tree cafe

宇都宮市西原3-3-14

Minor Swing

宇都宮市中央1-6-4

BOOK FOREST

芳賀郡芳賀町祖母井368

コミュニティカフェスペース カヌク

日光市今市741

Cafe Mario

宇都宮市昭和2-9-20

ほっとスペースひだまり

宇都宮市西川田町1058-16

チバコーヒー

宇都宮市陽東3-7-2

販売協力店舗

参加人数(のべ):231人

活動時間:1,392時間 協力者(のべ):34人

取扱商品:13品目 総売上個数:156個数

総売上金額:52,560円

成果

- ・ 協力店舗との新しいコラボイベントを企画できたことで、今まで繋がりがなかった小学生に商品を使ってもらったり、震災や作り手さんの事を知ってもらえた。さらに、作り手さんに子供が書いたメッセージカードを渡したり、イベントの様子を伝えることができ、作り手さんの生き甲斐ややりがいの向上につながられた。

課題

- ・ 被災地の状況変化に伴う新たな課題やニーズの把握が難しくなっている。
- ・ 復興支援商品として売りづらくなっており、売上が減少している。
- ・ 学生メンバーの多くが大学卒業を機に栃木県を離れてしまったため、ボランティアメンバーが不足している。

✿ その他事業

(1) 災害支援チーム ユース500

2015年9月10日、台風18号の影響による大雨により栃木県内各地で大きな被害が発生した。  
 人的被害: 死者3人、負傷者5人  
 建物被害: 全壊23棟、床上浸水2,277棟  
 (参照: 県発表の被害状況資料)  
 日頃より若者たちとのボランティア活動や社会貢献活動に取り組むNPO法人トチギ環境未来基地と当会を中心に中間支援組織等と連携。災害支援チームを設置し復興支援活動を展開した。

チーム構成団体:

- ・NPO法人トチギ環境未来基地
  - ・NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
  - ・認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク
  - ・かぬま市民活動広場 ふらっと
- 協力:
- ・公益財団法人とちぎYMCA
  - ・一般社団法人栃木県若年者支援機構
  - ・NPO法人宇都宮まちづくり市民工房・鹿沼市社会福祉協議会

参加者(のべ): 804名 活動日数: 58日

フェーズ①	フェーズ②	フェーズ③
-------	-------	-------

9/12 - 9/25  
 平日に活動できる学生ボランティアと共に  
 平日に各地の災害ボランティアセンターではボランティアの不足が予想されており、平日に活動ができる大学生と共に活動を進めた。国際医療福祉大学のボランティアチームも合流し、共に活動を展開。  
 鹿沼市、小山市、日光市で活動。

9/26 - 10月中旬  
 災害ボランティアセンター外ニーズへの対応  
 家屋の復旧のニーズが減少し、社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターは、暮らしの再建、家屋の復旧が中心で、対応しづらい困りごとに対応できるように「ふらっと」とともに、かぬま市民生活復興センターを設立。  
 例えば、田畑、公共地、事業所、公民館など復旧に取り組む。活動現場でのコーディネートを中心に、広報、調整、企画など事務局運営の補助も担う。

10月中旬 - 12/13  
 自治会、農家からのニーズへの対応  
 かぬま市民生活復興センター設立後、鹿沼市の被災した各自治体へのニーズ調査を行い、側溝や公共スペース、田畑を中心に50件を超えるニーズあり。これまでの活動に加え、鹿沼市民のボランティア協力を増やしていきたいよう、市民向けの広報や、自治会に加入していないマンションでのポスティングなどを行う。市外からのボランティアだけでなく市内のボランティア数も増加。

<成果>

- ・ NPOとの連携により、従来の災害ボランティアセンターは対応しきれない個人の田畑や事業所内敷地、側溝・水路、など、ボランティアの柔軟性かつ即応性を活かした活動を展開ができた。
- ・ 災害等の緊急時において、日常のプログラム開発、コーディネート、活動展開、若者の巻き込みなどを活かすことができた。

(2) 栃木県まちなか元気会議事業  
 「とちぎ未来留学」(とちぎ学生未来創造会議)

栃木県内の大学生が、大学を越えて集い、未来や社会について語りあい、地域社会への主体的な一歩を踏み出してもらうことを目的に、国際医療福祉大学/白鷗大学/青年会館/社会福祉協議会/社会教育団体で構成された実行委員会で運営される「とちぎ学生未来創造会議」。今年度はプログラムを刷新し、今までの大学を超えた語り合いから、より地域づくりの現場を体験し、継続的な関わりのきっかけを提供する「とちぎ未来留学」を実施した。



日時: 平成27年9月26日～11月28日  
 場所: 宇都宮大学、栃木県青年会館、各地域づくり現場  
 参加者: のべ参加者49名、のべ協力者30名、活動時間363時間  
 現場体験プログラムー地域づくり活動現場 受入団体  
 ・トチギ環境未来基地(益子) ・カワマタスタイル(日光)  
 ・マチナカプロジェクト(栃木) ・YMCA(宇都宮)

<成果>

- ・ 初めて地域づくりにかかわる学生の参加と現場活動を提供できた。
- ・ プログラム後、自らの意思で各団体に参加した学生が生まれた。

(4) 会員限定交流会「YOUTH TIME」

会員限定交流会とし昨年度から開催。当会会員の企業の方や地域でアクションを起こしたい若者まで様々な方が集っている(当日入会も受付けている)。隔月開催し、今年度は4回実施、計62名の方の参加を得られた。(総会と同時開催のVol.05は除く)主なコンテンツは、円卓会議(後述)・ユース事務局とインターン生による事業や活動の報告・会員によるミニセミナー(写真)・交流タイム。ミニセミナーでは当時新聞に自社の支援プロジェクトのJICA採択が決定が報道された当会理事でもある有限会社ドンカメ代表取締役小久保行雄氏 他4名の方にご協力いただいた。それに加え今年度は会員の方と事務局による円卓会議を新たに実施。ユースが抱える課題を会員も事務局も一つのテーブルを囲み、アイデアを提供していただき、会員の想いが事務局に活かされる大切な機会となった。



<成果>

- ・ 会員と事務局による円卓会議が好評で、事務局としても会員の方から貴重な声・アイデアをいただくことができた。
- ・ 会員による自らのプロジェクト発表・告知の場としても機能し、会員同士お互いの進めているプロジェクトを確認できる機会となっている。

(3) ユースワークキャンプ for 海岸林

昨年度よりフクシマ環境未来基地のパートナーとして、福島県いわき市の海岸林再生活動「苗木 for いわき」に関わり、福島を抱える課題に対して、実際に植林などを体験し、汗を流しながら貢献する1泊2日のワークキャンプを実施。年6回実施し計52人の参加を得られた。



<成果>

- ・ 震災支援だけではなく、環境保全・過疎地域への関わりなど様々な活動を通して、福島を抱える様々な困難に貢献することができた。また活動を通して得られた視点から、県内で独自の活動を起こす参加者がいるなど、次へのきっかけづくりとなった。
- ・ とともに汗を流し、2日間の時間を共有する中で、参加者同士の新たな人とのつながりが生まれた。

(5) その他・講演・ワークショップファシリテーター等

またその他にも下記の事業を実施。  
 ・ 目白大学 宇都宮フィールドワーク

講師派遣

那須CEO倶楽部、日本NPOセンター「非営利法人選択に関する実態調査の結果報告シンポジウム」、日本ES開発協会「会社と街の関わり方を考えるダイアログ」、宇都宮共和国大学「NPOで働くキャリア形成」、目白大学「地域社会学科 高久ゼミ」講師、白鷗大学結城 ゼミワークショップ、白鷗大学結城ゼミ 講師、JICA進路選択セミナー ゲスト講師、学習支援ボランティアオリエンテーション、ボランティアコーディネーション力検定1級、作新学院大学 高橋ゼミ、宇都宮大学「ワークショップで学ぶボランティアと市民活動」、全国ボランティアフェスティバル分科会ゲスト、パルシステム講座講師、協働コーディネーター、城南高校「国際理解講座」講師、KAKEHASEED@TIA、日本政策金融公庫ソーシャルビジネス、栃木県社会福祉協議会ボランティアコーディネーター講座、雀宮地区まちづくりワークショップ、宇都宮ベンチャーフォーラム、ダブルプレイス、「森づくり若者との活動の仕方」講師、宇都宮大学シンポジウム基調講演、ソーシャルビジネスシンポジウム



2015.05.30  
 日本ES開発協会「会社と街の関わり方を考えるダイアログ」に出席する当会岩井  
 (写真は2015.06.01下野新聞より)

参加者(のべ): 723名 プログラム実施回数: 27回  
 協力者: 74名 総活動時間: 2,237.5時間(※災害支援を除く)

古本で若者のチャレンジを支える寄付のしくみ「ホン de チャレンジ」



読み終えた本が寄付になり、若者による社会を良くするチャレンジをサポート

ご自宅や職場で不要になった書籍やCD、DVDを株式会社バリューブックスが買い取り、その相当額が当会に寄付されるファンドレイジングプログラム。いただいた寄付金については全額「若者による社会を良くするスタートアッププログラムiDEA→NEXT(アイデアネクスト)」の運営資金・受賞者への活動支援金などに充てさせていただいている。

例年栃木県内だけでなく、日本全国から多くの方のご支援をいただいている。

※株式会社バリューブックス協働事業



2015年度寄付について



67人



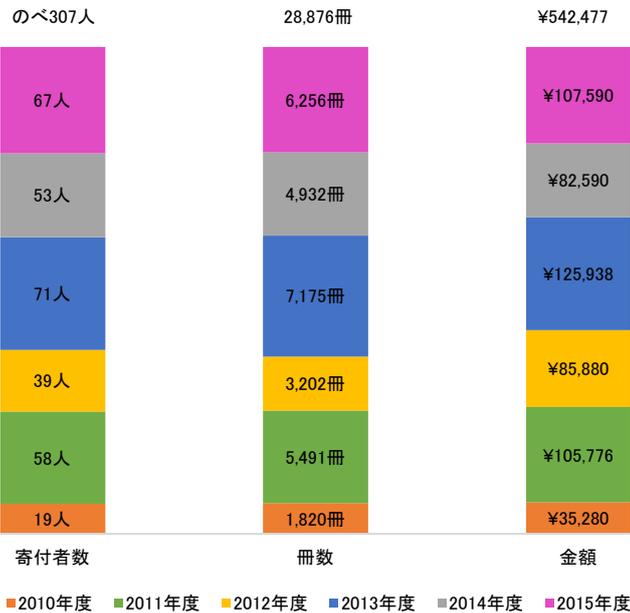
6,256冊



107,590円

なお上記金額に「とちぎ県民協働フェスタ2015」での古本売上6,100円を加えた113,690円を当団体の事業「iDEA→NEXT」運営資金に充てさせていただきました。今年度も皆様のご支援、誠にありがとうございます。iDEA→NEXTにつきましては本報告書の10P～11Pをご覧ください。

2010年度からの推移について



2010年度10月より開始したホン de チャレンジ(ホンチャレ)それぞれの年度の成果は左図のようになっている。

昨年度は(本事業が10月にスタートした2010年度を除き)1年間を通じての寄付金は過去最も低い数字となってしまった。その反省を踏まえ、今年度は新パンフレットとチラシを作成、また「とちぎ県民協働フェスタ2015」にて本事業での出展を行うなど(古本販売・1冊50円販売・120冊売上)、積極的な取り組み・周知活動を実施。その結果、過去に2番目という結果となり、一定の成果得ることが出来た。

また古本回収BOXに新たに1団体の協力を得られることになり、以下の6団体様から継続的な支援をいただいている。

- <古本回収BOX設置団体>
- ・ 宇都宮市まちづくりセンター まちびあ
  - ・ 下野新聞 NEWS CAFE
  - ・ 栃木県青年会館コンセーレ
  - ・ 宇都宮市社会福祉協議会ボランティアセンター
  - ・ 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク
  - ・ 宇都宮ベンチャーズ【NEW!!】

これまでの寄付総計

期間: 2010.10.01 ~ 2016.03.31



307人



28,876冊



542,477円

成果

- ・ 新パンフレット・チラシの作成を行い、イベント出店なども行うことで、過去2番目という一定の成果を収めることができた。新たな古本回収BOX設置団体の協力も得られ、作成したパンフレット・チラシは今も重要な広報材料となっている。

課題

- ・ 状況は回復できたとはいえ、様々な取り組みが「過去最高」という結果に結びつかなかったのは残念。今年度新たに増えた古本回収BOX協力団体のように団体による支援の広がりも模索しなければならない。

✿ 「ユース年末寄付キャンペーン」

寄付  
キャンペーン  
donation campaign

若者のソーシャルプロジェクト(社会貢献活動)の加速のために今年も寄付キャンペーンを行った。

今年度のキャンペーンでも昨年に引き続き、若者による社会を良くするスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」の深化と拡大、そして、若者の挑戦の”見える化”をテーマに打ち出した。

“とちぎの新しい物語”と“未来を明るくしていく若者”を育む、そのひとりに。“未来は明るい”そう思える人が広がるように。

という思いを込めてキャンペーンを実施。

また、企業においてはiDEA→NEXTの協賛も同時に募集。

昨年に引き続きiDEA→NEXTファイナルプレゼンテーションで気に入ったアイデアに直接授賞をすることができる、一口100,000円の大口企業協賛も用意した。



2015年度寄付キャンペーン (2015.12~2016.03)

494,580円

個人寄付者: 17 名  
協賛企業: 13 社

協賛企業13社

アイ・こころのクリニック  
株式会社アール・ティー・シー  
株式会社キッズコーポレーション  
株式会社五光宇都宮店  
こらぼワーク  
株式会社サムライトサムシング  
株式会社ジード

株式会社セカンドブーム  
株式会社ドクターリフォーム・サンセイ  
株式会社栃木銀行  
はやき風株式会社  
株式会社ファーム・アンド・ファーム・カンパニー  
FAAVO宇都宮  
(五十音順・敬称略/個人寄付者は裏表紙に記載)

成果

- ・ 目標金額には届かなかったが、寄付者・協賛企業の数が増えた。認識度が上がったと捉え大きな成果と考える。

課題

- ・ 昨年度より寄付者も協賛企業も数は増えているものの、金額が減少した。大口協賛企業が2社→1社になったことが大きな原因である。大口のメリットを周知すること、またメリットをより魅力的な物にしていかなければならない。

✿ 「gooddo」

インターネットを介し、支援者による金銭の自己負担なしでgooddoサイト上の「応援する」ボタンのクリック、もしくは同サイトを經由して楽天市場にてインターネット通販を行うことなどでNPO/NGOに支援金が送られるファンドレイジングプログラム。

手軽に自己負担なしでクリックや買い物だけで寄付が行える仕組みとして好評をいただいている。またクリックでの応援は1回につき20~1000ポイントの間でランダムに団体へポイントが届けられ、一週間毎に貯まったポイントに応じて団体への寄付金が決定する仕組みになっている。

ランダムなポイントが入る...というエンターテイメント性も含むこと、そしてgooddoはその獲得ポイントをソーシャルメディア(SNS)拡散が簡単に出来るようになっており、それにより一段と支援の輪が広まりやすくなっている。

スマホでできる支援!  
gooddo  
グッドウ

毎回 クリックしてお買い物するだけ!

以下のボタンをクリックして  
楽天でお買い物をするだけで、  
「購入額×0.5%~」が  
支援金が団体に届けられます。

各ショップの  
ポイントも  
いつも通り!

↓お買い物はこちらから  
購入の都度、このリンクから訪問してください

楽天  
T C H I B A

回数制限なし。購入のたびに↑をクリックするだけ!

※gooddo WEBサイトより

♥毎日のクリックで応援する 20~1000ポイント

応援する! ボタンをクリックするだけでポイントが貯まり、「とちぎユースサポーターズネットワーク」を無料で支援することができます。(毎月最大3万円)  
※応援は1人1日1回までです。無効な応援があった場合は再集計が行われ、対象となるポイントを減算します。

応援する!

♥楽天の買い物で応援する 購入額に応じた支援金

楽天でお買い物すると、購入額に応じた支援金が「とちぎユースサポーターズネットワーク」に届けられます。

ありがとうございます!  
あなたのクリックで100ポイント獲得!  
シェアして応援の輪を広げてください

gooddo  
クリックで  
支援!

100pt

『とちぎユースサポーターズネットワーク』に100ポイント届けました! 次のゴールまで残りあと2210ポイント。 ~ NPOを無料で簡単に支援できる! gooddo(グッドウ) ~

今日は『とちぎユースサポーターズネットワーク』に100ポイント届けました! 次のゴールまで残りあと2210ポイント。 ~ NPOを無料で簡単に支援できる! gooddo(グッドウ) ~

f シェア ツイット

2015年度寄付について (2015.04~2016.03)

65,829円

(※差引手数料を除く)

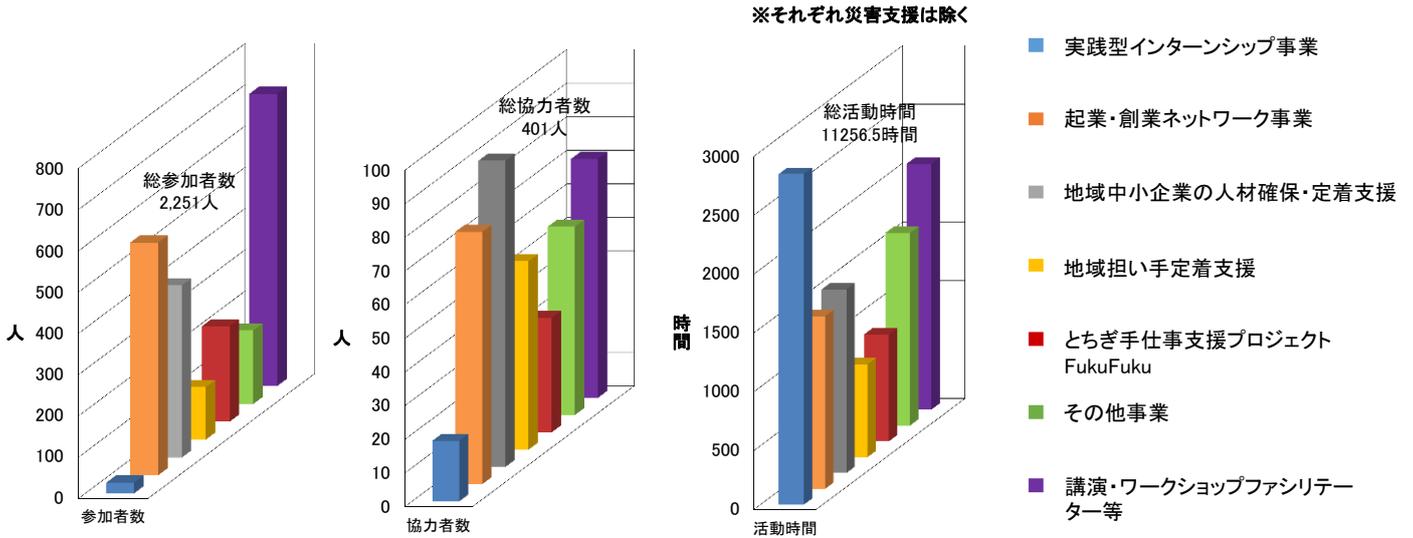
成果

- ・ 手軽にできる支援として継続的に支援をいただいている。支援者の方のソーシャルメディア拡散の協力もあり、7月頃には最大団体獲得ポイント30,000ポイント獲得が毎週継続的に続いていた。

課題

- ・ gooddo加入団体の母数が過去より増えてきたこともあり(一人が一日に支援できる団体は一団体のみ)、今後は他団体との差別化のためにより一層の取り組みが求められている。

2015年度 事業別参加者数等



2015年度 活動実績分析

※それぞれ「講演・ワークショップファシリテーター等」は除く(後述に別欄を用意)

参加者数

連続セミナー・講義形式の開催が多かった「起業・創業ネットワーク事業」がのべ参加者数としては最も多量となった。同事業は今年度より当会が運営を担当することになった宇都宮大学講座「起業の実際と理論」の毎週の開催(10月初～1月末まで実施)により、昨年度より大幅に数を伸ばす結果となった。次点では夏から冬にかけて「働く人図鑑」など様々なプログラムを開催した「地域中小企業の人材確保・定着支援」、定期的なイベント開催や出店を行っている「とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku」と続く。

協力者数

「地域中小企業の人材確保・定着支援」が最も多くの方にご協力いただいた事業となった。若者向けの就職に関するプログラムを開催する際、県内企業の方に講師・ゲストを務めていただき、11社23名の企業の方にご協力いただいた2月開催の「トチギゴトフェス」はその象徴であるといえる。次点の「起業・創業ネットワーク事業」も同様に「iDEA→NEXT」・「起業の実際と理論」・「ソーシャルビジネスセミナー・フォーラム」の各種プログラムも連続形式で、多くの方に講師・メンター・ゲストとしてご協力いただくことができた。

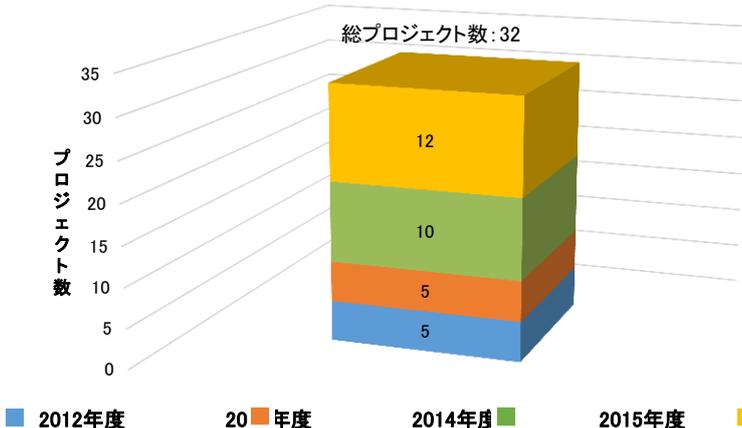
活動時間数

「実践型インターンシップ事業」が圧倒的一位に。今年度は年度をまたいで継続する案件を含めると9件ものマッチングに成功し(宇都宮大学「課題発見・解決型インターンシップ」を除く)、参加者数としては極めて少ないながらも、若者が企業やNPO団体などにて長時間積極的に関わっていくという当事業の仕組みを体現する結果となった。また宇都宮大学「課題発見・解決型インターンシップ」についても大学の授業の中にインターンシップを盛り込むという特性から依然当事業の3分の1弱の割合となっている(※昨年度は同事業活動時間数の約半分の割合)。

講演・ワークショップファシリテーター等

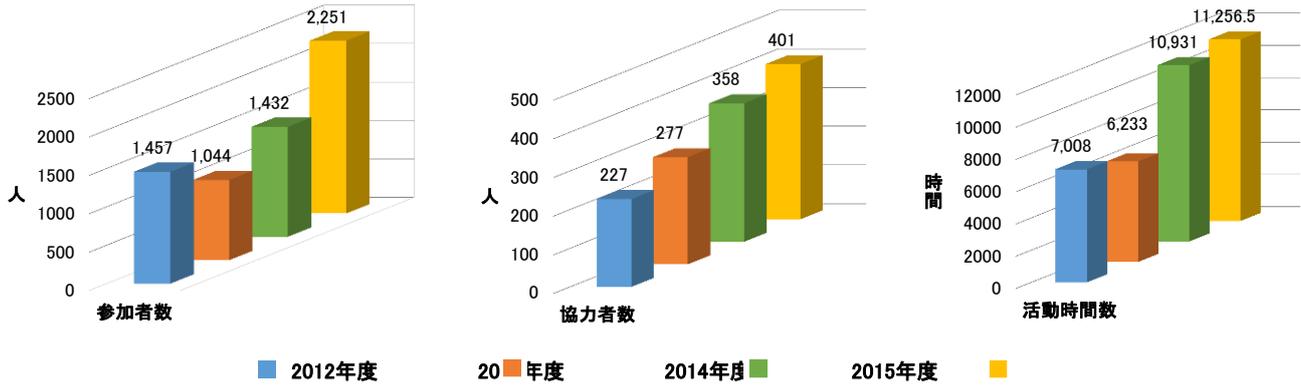
昨年度の12件・活動時間508.5時間から今年度は27件・活動時間2,087.5時間と大幅な増加となった。今年度は大学やボランティア・市民活動関連の関わりが増えることながら日本政策金融公庫や宇都宮市産業政策課との関係でソーシャルビジネスに関する講演も多く担当したことが特徴といえる。

ユースの活動にて興った新プロジェクトの数(2012年度～)



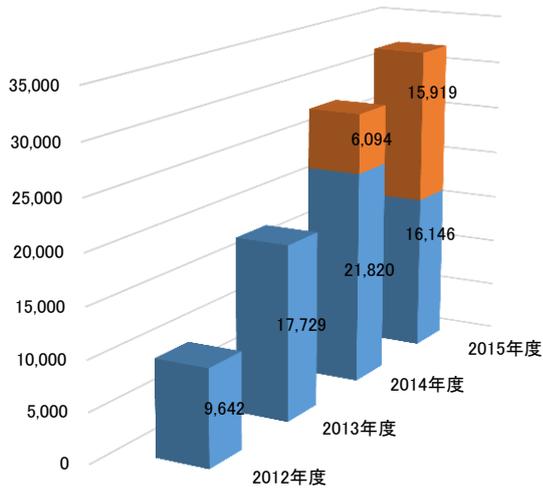
内訳	GENBA CHALLENGE	iDEA NEXT
2012	4	1
2013	2	3
2014	7	3
2015	6	6

✿ プログラムデータ

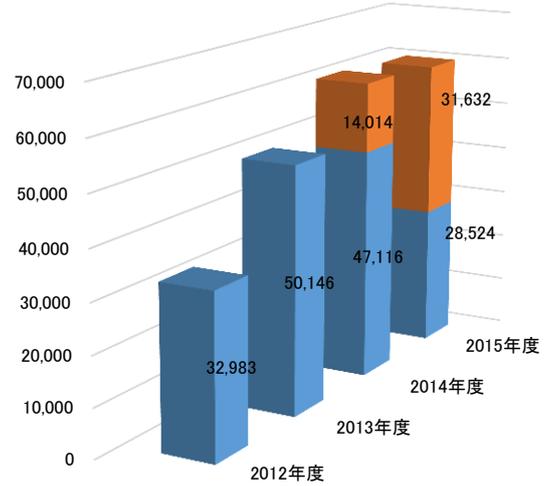


✿ Web

UU official WEB・project WEB “SOZO”推移

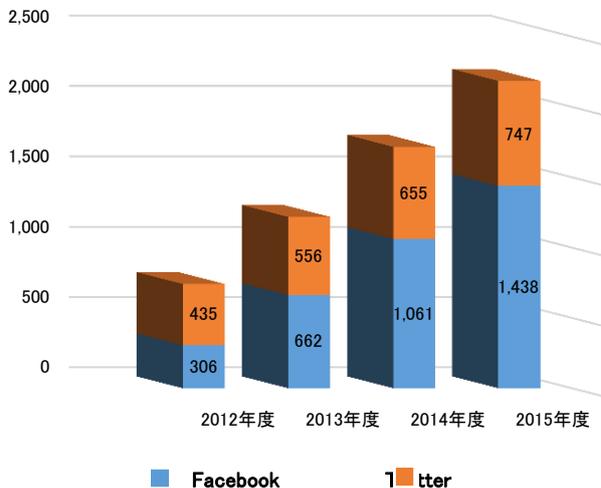


PV official WEB・project WEB “SOZO”推移

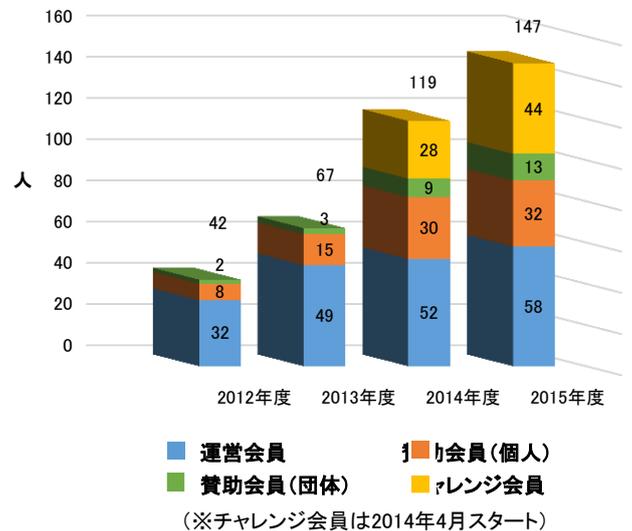


■ official WEB ■ ject WEB “SOZO”  
 (※Project WEB “SOZO”は2014年10月スタート)

✿ ソーシャルメディアフォロワー数



✿ 会員データ



■ 運営会員 ■ 賛助会員(団体) ■ 個人会員 ■ チャレンジ会員  
 (※チャレンジ会員は2014年4月スタート)

# 数字で見るTEAMユース③メディア掲載

提出日	媒体名	プロジェクト名	記事タイトル
2015年4月2日	下野新聞 朝刊	地域コーディネーター養成	本県の若者人材育成団体を助成
2015年4月24日	クロスロード		想像力を働かせてヒトゴトを「ジブンゴト」に
2015年5月29日	産経新聞 朝刊		日光東照宮でセミナー
2015年6月1日	下野新聞 朝刊		働く意義学び30人到着
2015年6月8日	下野新聞 Tたいむ6月号		若い力がとちぎの未来を変える
2015年6月9日	栃木県青年会館40年史		今に生きる学生時代の「PIF」
2015年6月15日	月間社会教育		人生を変えた二年間JICA
2015年6月26日	下野新聞 朝刊	地域コーディネーター養成	人材育成団体に150万円助成
2015年6月29日	オルタナ 2015年8月号	GENBA CHALLENGE	若者と中小企業が地域創生
2015年7月2日	下野新聞 朝刊		若者とNPOがフットサル交流
2015年7月7日	公益法人 2015年第7号		非営利法人格選択に関する実態調査の結果報告シンポジウム
2015年8月3日	CRT栃木放送		(代表岩井の出演)
2015年8月20日	下野新聞 朝刊		薩摩の酒文化伝えたい 鹿児島大生福本さん (※ユース事務所来訪の模様)
2015年9月18日	読売新聞 朝刊	とちぎ未来留学	地域づくりにチャレンジしよう
2015年9月25日	ココロココ(Webメディア)	はじまりのローカル コンパス	「はじまりのローカルコンパス」～栃木と気軽にかかわれる道しるべ!～
2015年9月30日	下野新聞 朝刊	はじまりのローカル コンパス	東京圏から若者呼び込め まちづくり体験事業化
2015年10月2日	東京新聞 朝刊	はじまりのローカル コンパス	UIJターンに友愛の懸け橋
2015年10月8日	CRT栃木放送	はじまりのローカル コンパス	(はじまりのローカルコンパスの紹介)
2015年10月5日	下野新聞 朝刊	災害支援チーム ユース500	「民」の力で復旧支援
2015年10月9日	読売新聞 朝刊	災害支援チーム ユース500	豪雨ボランティア1万人
2015年10月26日	下野新聞 朝刊	WORK TRIP	県内で働きたい若者を支援/来月3日にバスツアー
2015年11月12日	マチノコト(Webメディア)	はじまりのローカル コンパス	あなたの生活に10%だけローカルを! 都市にいながら栃木の暮らしに触れられる「はじまりのローカルコンパス」
2015年11月15日	下野新聞 朝刊	はじまりのローカル コンパス	栃木若者6人、市の魅力体感
2015年11月20日	日本経済新聞 朝刊	はじまりのローカル コンパス	栃木県、観光絡め移住促進
2015年11月25日	下野新聞 朝刊	はじまりのローカル コンパス	移住促進ツアー
2015年12月8日	TOKYO FM	はじまりのローカル コンパス	(はじまりのローカルコンパスの紹介)
2015年12月12日	下野新聞 朝刊		ソーシャルビジネス融資
2015年12月18日	下野新聞 朝刊		起業支援へ連絡会議
2016年1月13日	読売新聞 朝刊	iDEA→NEXT 宇都宮大学講座「起業の実際と理論」	若者の起業へ 取り組み様々
2016年1月21日	ココロココ(Webメディア)	はじまりのローカル コンパス	「はじまりのローカル/コンパス」あなたのローカル見つけましたか?
2016年2月5日	ソトコト 2016年3月号	とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku	被災地から離れた場所からでも出来る支援
2016年2月5日	ソトコト 2016年3月号		宇都宮市の「ダブルプレイス」イベントが東京で開催決定! 新しい暮らし方がここに!
2016年2月5日	ソトコト 2016年3月号		宇都宮の新しい過ごし方。ダブルプレイスをしてみたい!【働く編】
2016年2月7日	朝日新聞 朝刊	はじまりのローカル コンパス	県内移住の前に訪問ツアー 好評
2016年2月17日	下野新聞 朝刊	WORK TRIP	地元企業の魅力 若者が発見
2016年2月19日	CRT栃木放送	WORK TRIP	(WORK TRIP vol.02 当日の模様)
2016年2月23日	とちぎテレビ	WORK TRIP	(WORK TRIP vol.02 当日の模様)
2016年2月25日	読売新聞 朝刊		若者と企業をつなぐ
2016年3月10日	下野新聞 朝刊	iDEA→NEXT	社会に役立つ事業提案
2016年3月24日	まちアド -地域の魅力をPRするデザイン-	はじまりのローカル コンパス	鮮やかな黄色をテーマカラーに女性への訴求力と高めた

## メディア掲載数 推移

2013年度	2014年度	2015年度
22 件	22 件	40 件

## メンバーからのメッセージ



### 「地方創生」に若者の力を！

田中義博さん  
運営会員・賛助会員団体  
企業組合とちぎ労働福祉事業団  
専務理事

人口減少が進む中、それぞれの地域ごと、どのようにして地域社会、経済を成り立たせていくかが時代の焦点になっています。補助金をばら撒いて、横並びの事業をやっているような従来の行政のやり方では、立ち行かなくなることは目に見えています。まちを活性化させ、地域産業を着実に発展させていく上で、若い人たちの自由な発想、行動力はとても重要です。最近、創業支援やソーシャルビジネス支援で、ユースさんと一緒に活動する機会も増えてきたように感じています。若者たちが住みやすく、働きやすい、魅力あるまちづくりを進めるために、力を合わせていきましょう。



若者が安心して地方で働ける世の中をつくりたい  
遠山和夫さん  
賛助会員団体  
株式会社ダンクソフト  
企画チーム  
宇都宮オフィス支配人

ダンクソフトは東京にあるITの会社ですが、地方でサテライトオフィスを多く展開しています。地方にサテライトオフィスを出す目的の一つに、大都市圏以外の場所でも東京と同じように仕事ができる世の中を作りたいと思っています。この取り組みは2005年から初めていて、2015年にはユースとご縁があり、宇都宮市内にもサテライトオフィスを開設し、その後介護のためのリターンした技術者を採用することが出来ました。地方には仕事が無い、生まれ育った地域を離れ大都市圏に出て行ってしまったり、故郷に戻りたいが仕事が無いと思っている人たちに、地方でも大都市圏と同じように仕事ができることを知ってもらい、住みたい場所で働ける世の中を、ユースと一緒に作って行ければと思っています。



### 若者はかっちょいい！！

高田 美保さん  
賛助会員  
一般社団法人  
社会福祉士事務所にしみる  
理事

とちぎユースサポーターズネットワークの若者はかっちょいい！ですね。自分たちと地域の未来の姿をしっかりと描きながら、地に足を付けて今を生きている感じがします。自分たちだけで完結しないところが素晴らしいです。皆さんを見てみると、常に「地域のためにはどうしたらいいだろうか。」「未来に役立つためには何をしようか。」など、多面的に活動されていて感服しています。自宅に送られてくるユースのパンフレットが大好きなのです。おしゃれなデザインはもちろん、若者たちのがんばっている姿がダイレクトに拝見でき、思わず母親気分まで目を細めてしまいます。こんなステキな若者がたくさんいる栃木県の未来は明るいぞと嬉しくなっています。



### 「否定しない」ユースの魅力

広瀬浩さん  
賛助会員  
特定非営利活動法人はばたき  
理事長

「否定しない」、良い言葉です。私の大好きな言葉でもあります。とちぎユースサポーターズネットワークの事務所に入った時、スタッフの方と打合せをする時、グループワークに参加した時、それぞれにこの言葉が常に存在しています。人を否定しない、また否定もされない。何と心地よい雰囲気でしょう。ユースサポーターズネットワークという組織の最も大きな特徴だと思っています。ユースにはなぜいろいろな人の取り巻きがあるのか、なぜ若者が集まってくるのか、それらの大きな要因の一つにこの「否定しない」があると思っています。この雰囲気を肌で知った私は、この魅力にはまっています。そしてこのことを多くの人々に伝えていきたいと思っています。



### すごさと温かさ これからも

岩村由紀乃さん  
賛助会員  
株式会社下野新聞社  
宇都宮総局長

若者の提案を地域や企業の取り組みにつなげるプログラムIDEA→NEXTの審査員を務めさせていただいたのが3年前。ステージに立つ若者たちの真摯な熱意あふれる発表はもちろん、このような場の必要性を認識し、手弁当で当たるとちぎユースサポーターズネットワークの「すごさ」と「温かさ」に驚いた。岩井俊宗代表理事とは、県の懇談会を通じて名刺交換させていただいたのが最初の出会い。当時は、(誠に申し訳ないが)具体的にどのような活動をされている団体なのか、正直よく分からなかった。その後、じっくり話をする機会があり、岩井さんの真っ直ぐな、熱い思いを知った。少子高齢社会、成熟社会といわれる今、若者たちの持つ可能性やエネルギーを最大限生かさなかったら、活力と魅力ある社会は創造できない。今後も彼らの背中を押したり、手を差し伸べる活動に力を注いでほしい。



### 新しいなにかをくれる場所

吉田直樹さん  
チャレンジ会員  
宇都宮大学4年

ユースとは1年生の終盤に大学内のインターンで出会いました。それ以降、ボランティア、社長留学、GENBA CHALLENGE、と様々な活動に参加し、いまでは軽く事務所にいって、ちょっとしたお手伝いをしながら楽しんでます。これまでスポーツしか打ち込んでこなかった自分には刺激的で初めての経験や考え方がかりでした。ユースのスタッフのみなさんとは、ときには相談できる頼れる大人であり、ときには自分を頼れる若者と見てくれる、そんな居心地の良い関係です。ユースの活動は現在の卒業研究にもいろんな場面で活きていると実感しているところです。これからもユースの活動の中で出会ったかっちょよくて面白い人たちから学び、まねをして成長していきたいです。



### 自分の想いを形にし 活かせる空間

三上 果南子さん  
チャレンジ会員  
宇都宮大学4年

新しいこと始めようと先輩と企んでいたところに、「学生を応援してくれる団体があるから挨拶しておいて」と先輩で紹介されたのが、ユースであり、岩井さんでした。その後は、実践型インターンシップをさせていただいたり、イベントボラしてみたり、ユースとつながっていくれば、自分では絶対つながらないところで、わくわくできるとあって、お世話になっています。ユースの一番すごいと思うところは、学生が気軽に相談できるプロフェッショナルがいるところだと思います。私自身、プロジェクトの企画や、フライヤーのデザインの相談にのっていただきました。その中で、自分の「できる」もわかったし、できることも増えたのでとても感謝しています。



### 自分の想いを形にし 活かせる空間

高橋伸明さん  
チャレンジ会員  
(2015ユースインターン生)  
医療機関地域医療連携室勤務  
医療ソーシャルワーカー  
(社会福祉士)

とちぎユースサポーターズネットワークでは、学生が考える柔軟な発想、学生ならではの挑戦を、サポートしてくれるスタッフが多数おり、若者の集いの場所となっています。大学時代、想いだけが先走っていた自分に、スタッフの皆さんは想いを形にするための手順を一つ一つを学ぶ機会をいただきました。学生ならこんなことができる、こういうチャレンジをしたいという、ひとりひとりが持っている想いの種を実現させるために力になってもらえる団体です。きつとあなたの想いも形になるはずですよ！



### 全てのはじまり

林和輝さん  
運営会員  
総務・経理  
もてぎ里山らいふプロジェクト  
事務局長

ユースに関わったのが去年の7月のYOUTH TIME。別の交流会で知り合った人達がFacebookで参加表明していたので、おもしろそうだなと思って参加したのがきっかけ。そこから、震災読書会→はじまりのローカルコンパス→ソーシャルビジネスセミナー→IDEANEXTと繋がっていきました。現在ははじまりのローカルコンパスに関わった茂木で、休耕地の活用に励んでいます。国際交流会からボランティア、農業までこの栃木という地で励んでいます。自分から外に出て、人と繋がればきっと何かがある！さあ！君も飛び出そう！

# ユース写真館

今年度、関わってくださった若者と地域の方々。  
沢山の学生が関わり、地域が元気になりました。  
これからも若者と一緒にユースは走り続けます。  
敬称略



ソーシャルビジネスセミナー  
最終日



だいじょうぶにて  
インターン生と共に



ユースのインターン生  
三人を囲んで



WORK TRIP 第2回 栃木レザーにて



栃木DARCにて  
インターン生と共に


 活動計算書

2015年4月1日から2016年3月31日まで（単位：円）

	ゲンチャレ	アイアネクスト	中小企業	復興販売	産業力強化	JT助成	県UJターン	ユース会計	合計
<b>【経常収益】</b>									
正会員受取会費								155,000	155,000
賛助会員受取会費								255,000	255,000
受取入会金								9,000	9,000
受取寄付金		135,680		4,420				554,594	694,694
受取助成金						1,496,669		986,740	2,483,409
受取補助金					727,552				727,552
協賛金収益	650,000	355,000							1,005,000
自主事業収益	1,185,000		6,066,530	63,510				2,184,700	9,499,740
受託事業収益							5,969,000	2,564,000	8,533,000
参加費収益		101,500		3,000				80,000	184,500
受取利息								489	489
雑収益									0
経常収益 計	1,835,000	592,180	6,066,530	70,930	727,552	1,496,669	5,969,000	6,789,523	23,547,384
<b>【経常費用】</b>									
事業費									
人件費	0	0	0	300,000	712,200	784,900	0	9,606,923	11,404,023
その他経費	4,920	576,395	708,243	837,818	428,736	653,400	2,620,132	1,652,705	7,482,349
事業費 計	4,920	576,395	708,243	1,137,818	1,140,936	1,438,300	2,620,132	11,259,628	18,886,372
管理費									
人件費									
その他経費								1,496,975	1,496,975
管理費 計								1,496,975	1,496,975
経常費用 計	4,920	576,395	708,243	1,137,818	1,140,936	1,438,300	2,620,132	12,756,603	20,383,347
	ゲンチャレ	アイアネクスト	中小企業	復興販売	産業力強化	JT助成	県UJターン	ユース会計	合計
当期経常増減額	1,830,080	15,785	5,358,287	-1,066,888	-413,384	58,369	3,348,868	-5,967,080	3,164,037
過年度損益修正損					-201,227				-201,227
当期正味財産増減額	1,830,080	15,785	5,358,287	-1,066,888	-614,611	58,369	3,348,868	-5,967,080	2,962,810
前期繰越正味財産額									608,873
次期繰越正味財産額									3,571,683

(注)特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動報告書と呼んでいます。

✿ 賃借対照表

2015年3月31日現在 (単位:円)

資産の部				負債の部			
科目	当年度	前年度	対比	科目	当年度	前年度	対比
<b>【流動資産】</b>				<b>【流動負債】</b>			
(現金・預金)				未払金	1,638,711	743,545	895,166
現金	509,604	61,851	447,753	短期借入金	0	1,500,000	-1,500,000
普通預金	4,982,477	2,712,512	2,269,965	預り金	601,294	631,676	-30,382
郵便振替口座	381,500	206,500	175,000	流動負債 計	2,240,005	2,875,221	-635,216
未収金	3,138,107	0	3,138,107	<b>【固定負債】</b>			
立替金	0	63,231	-63,231	長期借入金	3,640,000	0	3,640,000
流動資産合計	9,011,688	3,044,094	5,967,594	固定負債 計	3,640,000	0	3,640,000
				負債の部 合計	5,880,005	2,875,221	3,004,784
				正味財産の部			
<b>【固定資産】</b>				<b>【正味財産】</b>			
(投資その他の資産)				正味 財産	3,571,683	608,873	2,962,810
敷金	440,000	440,000	0	(うち当期正味財産増加額)	2,962,810	576,142	2,386,668
投資その他の資産 計	440,000	440,000	0	正味財産 計	3,571,683	608,873	2,962,810
固定資産合計	440,000	440,000	0	正味財産の分合計	3,571,683	608,873	2,962,810
資産の部合計	9,451,688	3,484,094	5,967,594	負債・正味財産の部 合計	9,451,688	3,484,094	5,967,594

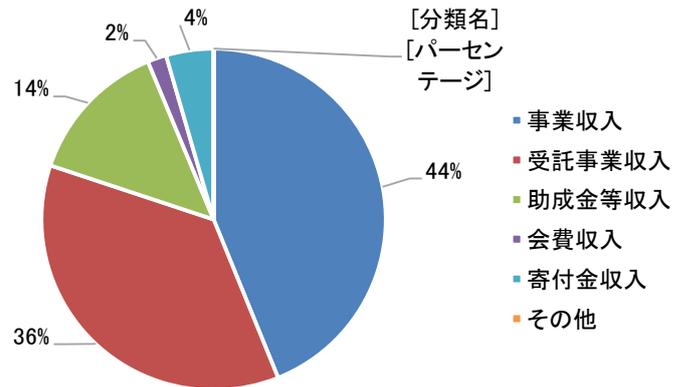
✿ 財務に関する分析

昨年度の収入から約180%増となり、事業の拡大にともない4名のスタッフ体制から新たに2名増員し、事業領域の拡大と事務局機能の強化が図れた年となった。個人会員が1割程度増え、重点目標であった企業/団体会員の数も前年度の9社から13社へ増加し当会のネットワークや協力者が更に広がった。継続して取り組んでいる事業の積み重ねもあり、事業への認知拡大と専門性の深化もすすめられた。

「収入」は、計画していたほぼ全ての事業に加え、年度途中から新たな事業も受注することができた。地方への若者の呼び込みや若者による地域づくりの推進が地方創生の施策にもなり、これまで取り組んできた事業も加速することができた。また委託事業や助成金に頼らず事業を継続していくため、自主事業の拡大にも取り組み、4割を超える収入比率となった。寄付・会費については、総額で昨年から大幅減となっており、次年度は寄附キャンペーンなどのテコ入れが必要である。

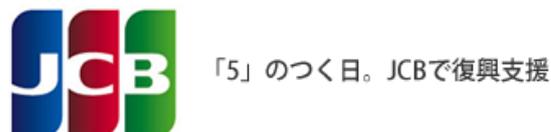
「支出」は、事業の拡大にあたり、広がった事業領域をカバーし取り組みを加速していくために、これまでは内部で抱えていた仕事のアウトソーシングをすすめた。また事務局機能の強化のため、人員を増加したことなどからも人件費が増加した。

また今後必要とされる社会課題への対応を見据え、チームとしてより成果を出せるように、組織体制の見直しや若い人材の合流をすすめ、新規事業にもチャレンジしたい。次年度は県内だけではなく、県外での共感者を広げていくことで、事業のレベルアップにつながるのを、引き続き情報発信にも注力する。若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を継続して行える仕組み・環境を整備していきたい。



2015年度財政比率

事業収入	10,334,240円
受託事業収入	8,533,000円
助成金等収入	3,210,961円
会費収入	419,000円
寄付金収入	1,049,694円
その他	489円
計	23,547,384円



アイ・こころのクリニック  
一般社団法人CHEEK UP  
KAERU Adventure 株式会社  
株式会社五光宇都宮店

株式会社サムライトサムシング  
株式会社ドクターリフォーム・サンセイ  
特定非営利活動法人 栃木DARC

ハッピーメーカー  
FAAVO宇都宮  
有限会社コーチ精機

✳ 2015寄付キャンペーン個人寄付者

池田秀昭  
勇伸佳  
入江保男  
内藤さつき  
菊池浩史

佐藤大地  
鈴木和彦  
竹之木進肇  
土崎雄祐

堀内初美  
松本法判  
松本政憲  
村上勝彦

森久美子  
守友裕一  
森隆一郎  
湯本浩之

# 2015 ANNUAL REPORT

2015.04.01 – 2016.03.31

Tochigi  
Youth  
Supporters  
Network✳

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

〒320-0808 栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル2F  
TEL/FAX: 028-612-3341 MAIL: ysn\_office@tochigi-ysn.net  
WEB: <http://www.tochigi-ysn.net>  
Project Web "SOZO": <http://sozo.tochigi-ysn.net/>  
Twitter: @youth\_tochigi  
Facebook: tochigiysn / とちぎユースサポーターズネットワーク